

世界のモードをつくる

くつ下・婦人服地・婦人既製服

セーター・肌着・ランジェリー





レナウン商事株式会社

レナウン工業株式会社

巻頭言



渡辺和美
（東京都ハンドボール協会会長）

中学体育指導要領 復活へ全力
＝評議員会のあり方に疑問＝

私は東京都協会の会長に就任してまだ間もないが、本部協会はじめ地方協会、選手諸君に次のことを希望します。

一、中学の体育指導要領にハンドボールを復活させるようにさらに努力していただきたい。7人制に切り替わった現在、これから伸びるためにはやはり中学時代からハンドボールに親しむことです。高校に入学してからハンドボールを始めたのではおそいと思います。幸いなことに東京、愛知、熊本、茨城はじめ各方面で中学校に力を入れています。地方の盛り上がった声を土台にして中学の体育指導要領の復活運動を展開してもらいたい。中学でハンドボールをやった地方は強くなり、優秀選手も出ます。現在の高校、大学のレベルを100とすると、三年四年後にはレベルがぐっと低下するのではないだろうか。それは中学時代に基礎をやらなかったことに起因するのではなかろうか。

高校入学後に基礎をやっていたのではとうてい間に合わない。したがってレベルの低下はもちろん、7人制のおもしろ味という点が大いに欠けてくる。私はこれを恐れている。私も大いに協力します。

二、年間を通じて最優秀選手、つまり7人制のための〝ベスト7〟の制定を希望します。これは優秀選手の名誉ばかりではなく、これを目ざして全国のプレーヤーがいっそう努力すると思うからです。別にプロ野球、六大学野球、サッカー、ラグビーのまねをしろというのではなく、大きな励みのためにいいと思います。

三、評議員会のあり方について協力してほしい。協会の年間予算がわずか百五十万円—二百万円ではたして運営できるかどうか考えていただきたい。評議員会は協会の予算を増額することを真剣に考えてやらないと、執行部はたいへんです。評議員会は金をどうして集めるか。不自然な収入よりも、各都道府県への割り当てを増額すべきだと思う。地方の会長もじゅうぶんこの点を研究していただきたい。戦後、評議員会全体の人づくりを考える時期に到達したのではないか。抹消的なことしかできないと勘ぐられても仕方のないことである。二百万前後の予算で海外遠征ができるだろうか。各県の会長、理事長はもっと反省し、協会に協力していただきたい。

四、関西学連の関学チームがレフェリーのジャッジにたいして不満を持ち、試合を放棄したのには驚いた。「審判は神聖である」—アマスポーツにたずさわるものなら、だれでもが知っていることである。レフェリーの不信任は絶対に許されない。お互いに反省しようではありませんか。

ハンドボール「第15号目次」

世界選手権、日本はD組にシード

第5回世界7人制（男子）ハンドボール選手権大会は39年3月6日から15日までプラハ（チェコ）で開かれる。日本はすでにエントリーし、D組にシードされた。D組はルーマニア、日本のシード国のほか、ノルウェー対オランダの勝者、ソ連対フィンランドの勝者の4チームで第一次リーグを行なう。

39年3月6日からプラハで

▽…国際ハンドボール連盟の広報（1963年8月、第42号）および共同通信社のAP電によると第5回世界7人制（男子）選手権大会は39年3月6日からプラハで開く。参加国は別表の26チームだが、前回優勝のルーマニア、2位チェコ、3位スウェーデンと西独、東独、デンマーク、アイスランド日本は予選なしで第1次リーグに出場することになった。他の18チームはことしの12月15日から来年1月19日までの間に、2回戦方法で予選を行なう。

ソ連対フィンランド
ルクセンブルグ対スイス
ポーランド対ハンガリー
ユーゴ対オーストリア
ノルウェー対オランダ
スペイン対フランス
米国対カナダ

▽…アフリカ・グループの組み合わせは次のとおり。

シリア対アラブ連合
象牙海岸対セネガル

この勝者が対戦して勝ったチームがB組から出場する。

▽…米国の登録は申し込みしめ切り後に到着した。これは郵便のミスによるもので、米国協会の責任ではない。したがって米国チームの参加を認めた。米国はカナダと予選（2回戦方式）を行ない。勝ったチームがA組から出場する。

目標はまず2勝！

第5回世界7人制（男子）大会の組み合わせが、さる8月31日にIHFから別表のとおり発表になった。（AP＝共同電による）

この大会は1963年3月にチェコで行なわれる。これは1961年9月、スペインの首都マドリードで開かれたIHF総会で最後まで東京と開催を争った。表決の結果、日本が敗れた因念浅からぬ大会でもある。すでに日本ハンドボール協会はさる2月の定例評議員会で、ナショナルチームの派遣を決定した。正式エントリーの結果、組み合わせの発表になったのである。前回同様にまたも最強グループにはいったのは、神が日本に与える試錬であると考えたい。

決定しているグループ別に検討すると、Aグループの順位は、おそらく西独、東独、オーストリア、アメリカとなろう。

Bグループはスウェーデン、アイスランド、ハンガリー、アフリカの優勝国。Cグループは、チェコ、デンマーク、フランス、スイスとなるのが順当であろう。

ところで問題は日本が加わってDいるグループである。各グループの2位までが第2次リーグへの出場資格を得る。日本としては是が非でも2位に食い込まなければならない。それには世界チャンピオンであるルーマニアは別として、おそらく予選で勝ち進むと予想されるノルウェーとソ連をたたかなければならない。

私が昨年、一昨年と欧州遠征したとき、見たり聞いたりした限りでは、ノルウェーはスウェーデンの流れを汲み、卓越した個人技に重点をおくチームである。オフェンス、デフェンスともに1―5システムを採用し、中央からのロングシュートと中央のポストプレーを併用していた。

ソ連はルーマニア、チェコの流れにしたがって、ものすごい力とスピードに重点をおくチームと見受けられた。オフェンスは1―5デフェンスは1―4のシステムを採用し、フランスと同様に日本にいちばんよく似たチームである。

いずれにしても相手にとって不足はない。まず2勝することが当面の目標である。（高嶋　洌）

オリンピック情報

ハンドボールまた除外

第19回大会はメキシコ市で

ことしのIOC総会（国際オリンピック委員会総会）は十月西ドイツのバーデンバーデンで開かれ、第19回オリンピック大会の開催地をメキシコ市と決定した。またこの総会で開催競技種目を18種目（東京オリンピックは20種目）と決まった。開催種目は表決によるもので、各国IOC委員が競技名の上に×をつけて投票。柔道が最高の37でまず除外され、次いでバレーボール、ハンドボール、洋弓の順

めざせ！打倒ルーマニア

来年の第5回7人制世界選手権に日本が出場する。一昨年の第4回大会に次いで2度目の出場だが、日本の実力はいったいどのくらいなのか。こんどの組み合わせをみるとルーマニアは別として、ソ連、ノルウェーが出てきそうだ。日本が第2次リーグに出場し、ベスト8でのぞむなら第1次リーグで2勝しないとだめ。日本対ルーマニアの試合はどうみても日本には分がない。ルーマニアは前回のチャンピオン・チームであり、こんども有力な優勝候補である。高嶋理事長は『ルーマニアを除く他の2チームに勝たなければならない。それがソ連、ノルウェー、あるいはオランダ、フィンランドにしても、とにかく2チームを倒すことだ』という。日本にとってはこれはかなり重荷である。欧州は各国間での国際ゲームが多い。これは立地条件によるもので、日本はとうていのぞめない。一昨年の第4回大会の記録をうのみにするのは実に危険である。ソ連にしろ、フィンランドにしろ、国際試合の経験が非常に豊かである。日本は第4回大会いらい国際試合から遠ざかっているので、なんとなく不安に思う。2勝して第2次リーグに出場するのもいいが、それよりも〃打倒ルーマニア〃の方が先ではないだろうかと私は思う。

ルーマニアを破ることが、第2次リーグ進出の大きなポイントになる。最初から「ルーマニアには勝てない」という先入観で試合をするのはあまりいいことではない。3年前の35年6月にルーマニア、チームが来日している。最終戦の対芝浦工大戦で17－16と1点差のすえ、ルーマニアが辛勝している。「国際親善試合だからルーマニアが力を抜いたんだ」という人もあるが、とにかくこの試合は七度も同点になり、タイムアップ寸前ブルガルのシュートが決まってルーマニアが逃げ切った。日本もベストをつくせば「ルーマニア恐れるにたらず」である。ベスト・メンバーを編成して〃打倒ルーマニア〃に力を打ち込んでほしい。（鷲尾武治）

参加チーム

（シードされた国）＝8チーム

日本，西独，東独，デンマーク，チェコ，アイスランド，ルーマニア，スウェーデン

（予選をやる国） 18チーム

オーストリア，カナダ，米国，象牙海岸，アラブ連合，スペイン，フィンランド，フランス，ハンガリー，ルクセンブルグ，ノルウェー，オランダ，ポーランド，セネガル，スイス，シリア，ソ連，ユーゴ，

スケジュール

▽第1次リーグ（3月6，7，9日）

（A組） 西独，東独，ユーゴ対オーストリアの勝者，カナダ対米国の勝者

（B組） スウェーデン，アイスランド，ポーランド対ハンガリーの勝者，アフリカグループの勝者

（C組） チェコ，デンマーク，フランス対スペインの勝者，スイス対ルクセンブルグの勝者

（D組） 日本，ルーマニア，ノルウェー対オランダの勝者，ソ連対フィンランドの勝者

▽第2次リーグ（3月11，13日）

（1組） A1位，A2位，B1位，B2位

（2組） C1位，C2位，D1位，D2位

▽順位決定戦

1位から8位までの順位を決めるため，1組，2組の同順位チームが対戦する。5位～8位までの決定戦は3月14日，1位から4位までの決定戦は3月15日。（各チームは合計6試合行なうことになる）

協会だより

フランスチーム招待

▽…日本協会は来年6月にフランスチーム（男女合わせて35人）を招待することになり、フランスのステラーチームから来日すると連絡があった。

優秀選手を表彰

日本協会は本年度から男子、女子、男子ジュニア、女子ジュニアの四部門の優秀選手を選考し、表彰することになった。すでに選考委員のメンバーも決まり、全国高校選手権、全日本総合選手権、国体、全日本学生選手権、全日本総合室内選手権、全日本実業団選手権、全日本学生王座決定戦、全日本学生選手権から選考する。選考を終わった大会は全国高校、全日本学生、全日本総合、国体である。

選考委員

▽技術部（2人） 松本重雄（協会常務理事）安藤純光（法大監督）

▽審判部（2人） 若崎重富（協会審判部長）岡村昭二（協会常務理事）

▽理事会（4人） 高嶋洌、山田計、入江暢一、田中秀夫

▽学識経験者（3人） 的場益雄、吉田正次郎、山田二郎

なお高体連関係は徳永陸繁氏に一任。

▽種別

男子（大学、一般） GK2人、FP18人

女子（大学一般） GK2人、FP18人

男子ジュニア（高校） GK3人、FP18人

女子ジュニア（高校） GK3人、FP18人

となった。総会が開かれるまでは次期開催地はリヨン（フランス）デトロイト（米国）の争いとみられ、「開催地がもしリヨンと決まれば、ハンドボールが正式種目になるかもしれない」という希望的観測があった。ところが表決の結果、メキシコ市と決まり、ハンドボールはまたも陽の目を見ずに終わった。メキシコ市に決定したのはソ連はじめ共産圏の票がメキシコ市に集まったといわれている。ユーゴ、ルーマニア、チェコの共産圏をはじめスイス、西ドイツ、東ドイツ、フランス、日本のハンドボール関係国が、はたしてハンドボールに「×」をつけたかどうか。ソ連がかなりの支配権を持っていただけに注目された総会であった。

▽高嶋理事長の話、AP通信東京支局が朝早く電話で知らせてきた。リヨンなら可能性があったが、開催地がメキシコ市とは驚いた。日本のIOC委員がどんな投票をしたか知らないが、とにかく残念だ。でもオリンピックばかりがスポーツではない。われわれは世界選手権で上位入賞を目標にしてこんども大いにがんばる。

23カ国が参加して

第13回国際審判講習会

若崎重富
（日本ハンドボール協会審判部長）

国際ハンドボール連盟主催の第13回国際審判講習会は，7月17日から20日までパリのフランス国立スポーツ研究所で世界23カ国から関係者が参加して行なわれた。この講習会には日本から日本協会審判部長の若崎重富（日体大ＯＢ），同協会ルール研究員の藤本強（東大ＯＢ）の両氏が出席し，8月19日帰国した。それで若崎氏に同会議の報告，藤本氏にヨーロッパのハンドボールのもようなどをお願いした。（編集部）



質問に答えているエミルホルル技術委員長

〔期日〕 1963年7月17日〜20日

〔場所〕 フランス国立スポーツ研究所（パリ）

〔講師〕 国際ハンドボール協会技術委員長エミール・ホルル氏。ほか技術委員会委員数名

〔参加国〕 アルジェリア、西ドイツ、オーストリア、ベルギー、デンマーク、アラブ連合、スペイン、フィンランド、フランス、オランダ、ハンガリー、ルクセンブルグ、モロッコ、ノルウェー、ポーランド、セネガル、スウェーデン、スイス、チェコ、チュニジア、ユーゴ、日本、象牙海岸（オブザーバー）以上二十三カ国

〔会議日程〕

『7月17日』午後4時＝フランス国立スポーツ研究所で受講者の登録および宿舎の割り当て。夕食後は自由行動。

『18日開会』（9時－10時）＝小講堂）

▽フランスハンドボール協会々長プチ・モンゴメール氏の歓迎のことば

「よくフランスにおいでくださった。東京オリンピックには残念ながらハンドボールは競技種目にはいらなかった。こんごのオリンピックにぜひハンドボールが競技種目にはいるようにしたい。パリではよく飲み、よく食べ、よく研究をし、運動し、パリでの生活を楽しんでください。」

▽国立スポーツ研究所所長の歓迎のことば

「国立スポーツ研究所に多くの国々からスポーツの友だちをお招きできてほんとうにうれしい。どうかよく学び、よく運動をしていって下さい。」

▽エミール・ホルル技術委員長の開会のことば

「フランスハンドボール協会々長、フランス協会技術委員長のおかげで第十三回の国際審判講習会をパリで開催できたことはうれしい。まずフランス協会に心からお礼を申し上げる。この講習会は二年ごとに総会のない年に行なってきた。これまでミュンヘン、プラハで行ない、今回はパリで開くことになった。全部の国で協力し、ハンドボール競技を大きく前進させていきたい。シリヤなど三カ国は出席の通知がありながら参加がなく残念だが、二十三カ国の参加を得ていままでにない最大の講習会となったことはうれしい。技術委員会は重要な任務をもっている。この講習会の内容をじゅうぶん覚えて国に帰り、かならず伝達してほしい。実際のプレーはパリのジョワンビルクラブ、ステラークラブにやってもらう。」

▽7人制ハンドボールについて（エミール・ホルル技術委員長の講義）

7人制ハンドボールでは、特に走ることが重要である。これに加えて、あらゆる意味での体力の養成が必要である。また選手同士のチームワークが必要なのはいうまでもない。レフェリーが競技を運営する場合には、ハンドボールの競技精神をじゅうぶんに取り入れてルールを運用してほしい。その道具としての笛はこの競技精神に則って吹いてほしい。

▽審判技術の実技講習

7人制の試合をジョワンビル対ステラーで行ない、この試合の審判を各国受講者が担当する。レフェリー、ゴールジャッジの三人を一組として10分づつ笛を吹かせた。（若崎＝第四試合のゴールジャッジを担当）

▽レフェリーに関する一般的注意（エミール・ホルル技術委員長）

(1) 審判の位置について

(イ) サイドラインにそって動きプレーを邪魔しないこと。できるだけすべてのプレーヤーが見える位置に立つこと。

(ロ) 常に体を動かしていること。足を動かさなくても、上半身のウイービングで見える位置になること。

(ハ) 速攻の場合には邪魔をしな

い位置で、できるだけボールについて走る。

(2) 笛について

(イ) 笛は反則のあったとき一回はっきり吹くこと。

(ロ) 笛は手に持っているのがよい。国によってそれぞれ特徴があるが、口にくわえているのはよくない。口にくわえていると、プレーがおきた瞬間に笛を吹くことになる。これはあまりにも笛が多くなりすぎる。

▽競技規則の解説（7人制の第一条から第六条まで）

これまでの日本の解釈と変わる点はほとんどない。第五条ノ九、「キックの項」で明らかに意図して行なった場合のみに限る。たとえばころがっているボールを足で拾いあげることか、片手と片足でボールを拾うとか、ゴールに蹴り込むとかの場合である。

▽審判技術の実技講習

10人のレフェリーが笛を吹き、20人がゴールジャッジを行なう。（若崎＝第一試合のレフェリーを担当、各国から好評を受けた）

『19日』

▽エミール・ホルル技術委員長の批評

(1) 記録席を常に見ながら走ること。

(2) 笛はゴールインのときは二回、このほかは一回だけ吹くこと。

(3) ゴールインのさいは、よくゴールジャッジの指示を見てから笛を吹くこと。

(4) レフェリーの技術で問題になる点

(イ) いかに動くか。（走りながらボールの近くにいて全体が見られ、ジャッジ、記録席が見える位置）

(ロ) 笛をいかに使うか。（手に持ち、ワンタイミング見てから笛を吹くこと。二重のアドバンテージはとらない）

(ハ) ゼスチャーであるが、片手はフリースローの位置を示す。片手はボールの進行方向を示すだけでよい。早く位置を示し、ボールを持ってから笛を吹くこと。

▽競技規則の解説（第七条〜第一七条まで）

(1) ラインクロスは、パスをしたあとでプレーに影響のない場合は反則としてとらない。

(2) 反スポーツマンシップの反則の場合は、一回でも残り時間全部ということもあり得る。

(3) キーパーの交代はハーフラインから行なう。コートでの不正交代はフリースロー。ゴールエリア内での不正交代は7メートルスロー。

▽11人制ハンドボールの映画

エミール・ホルル技術委員長製作による「フィールド・ハンドボール」（16ミリ映画三巻）

(1)体力　いろいろな球技を行なう。柔軟体操、クロスカンツリーなど。

(2)技術　FWの技術、バックスの技術。

(3)戦術　スイスの世界選手権のフィルムを公開

▽審判技術の実技講習

ジョワンビル対ステラーの混成軍によってフィールドハンドボールの紅白試合が六人のレフェリーによって吹かれたが、全く熱のはいらない講習であった。

『20日』

質議応答

各国から質問が出されたが、日本においてすでに研究されている事項で、特に新しい問題はなかった。

日本から次の事項について質問をした。

(1) フィールドプレーヤーがゴールエリア内でのドリブル。…答え「反則ではない」

(2) ゴールエリア内でキーパーが持っているボールを、エリア外からボールをはたいた場合。…答え「反則ではない」

(3) バックコートでのフリースローのさいに、フロントコートのフリースローライン内にはいっていてもよいか。…答え「反則である」

(4) 不正交代のさいはかならずベルを鳴らすのか。…答え「攻撃防御のいずれ側が行なってもベルを鳴らし、その選択はレフェリーが行なう。しばらプレーを見てから笛を吹く」

西独では国民のスポーツ

藤本　強（東大ＯＢ）

パリの国立スポーツ研究所で行なわれた第13回ハンドボール国際審判講習会に出席したあと、トレーニング方法見学のためケルン郊外に1週間ほど滞在した。ラーデフォルムバルトという名のドイツ人でもほとんど知らない町にあるウェストファーリア。ここの北ライン地方体育協会所属の合宿所に世話になった。

この合宿所にいる間に二つの試合を見ることができた。一つは土曜日の午後6時にスローオフされたグンメルバッハでの試合。もう一つは日曜日の午前11時に始まったゾーリンゲンでの試合である。

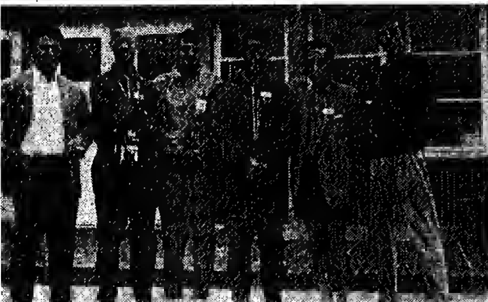


ドイツ合宿所にて

数千の観衆に驚く

前者は1962年度のドイツ国内選手権チームをグンメルバッハに呼び、グンメルバッハチームがこれに対戦する試合である。ドイツハンドボール協会の多くの関係者が車を連ねてやって来た。両チームともドイツ国内での一流チーム。スタンドはなにがしかの金を払った客でいっぱい。客は数千もいようか。とにかく観衆が多いのにまず驚かされた。ドイツは11人制の本家であり、シーズンは夏。試合はもちろん11人前。

試合がはじまる。6時スローオフというのも日本とくらべておもしろい。グンメルバッハチームはマンツーマン・ディフェンスをとっている。シュートされた場合、責任の所在が明らかなのでものすごくきたないディフェンスをする。手に触れうる範囲にはいった攻撃側選手に対しては、突く、押す、引っぱるなどあらゆることをする。攻撃側も負けてはいない。さかんに手を使い応戦している。特にボールを持っているものと、それをマークしているものとの戦いはすざまじい。片手は首に手をかけ、ひきずり倒してでもとめようとする。攻撃側は強引に手でかきわけ、押しとろうとする。レフェリーはよほどのことがないと笛を吹かない。このようなとき笛が鳴ると、観衆はフィールドツェーンメーター（14メートルスロー）と叫ぶ。しかし14メートルスローはほとんど行なわれない。とにもかくにもシュートしてしまえばそれまで。全く荒い試合だ。それでも得点はどんどん増えていく。ゴールするたびに「トル（ゴール）」とスタンドは騒ぐ。地元チームの得点の場合は大きな声、拍手が起こる。足をかけて相手を倒したとき、14メートルスローが宣せられた。そのときの観衆はすごい。ほんとうに興奮している。「フィールツエーンメーター」まさにこれは彼らにとってこの上もないことばなのであろう。


各国代表と

うまいブロックとシュート

レフェリーの判定に対してもずいぶんうるさい。地元チームであれ、相手チームであれ、自分に納得がいかないとものすごい騒ぎだ。口笛をならし、大声で騒ぐ。

結局はグンメルバッハが敗れたが、目立ったのは攻撃側のブロックのたくみさと、シュート力である。フリースローラインのうしろの方からどんどん打つ。

6人攻撃、6人防御は当然だが、ポジションチェンジはしばしば行なわれていた。攻撃するものは7—11の背番号のものだけでなく、いわゆるフォワードがうしろで守っていて、バックが2人、3人攻めている場合がしばしば見られた。「どのポジションでもこなせます」ということらしい。

翌日ゾーリンゲンで試合を見た。これもドイツ一流チームの対戦。緑の芝生に白いラインがあざやかである。スタンドにも座席があり、観衆でいっぱい。「サッカーと共用か」と聞くと「ハンドボール専用」という。実にうらやましい。やはりスタープレーヤーがいるらしく、メンバーのアナウンスにヤンヤの拍手が起こる。

試合はきのうと打って変わり、フェアなもの。選手もきたないことはしない。レフェリーもビシビシ反則をとっている。日本のレフェリーと全然変わらない。なんだかほっとした気持ちだ。ゾーリンゲンチームが勝ち、観衆は大喜び。ここでもブロックのたくみさ、シュートの強さが目についた。

きれいすぎる日本のプレー

きのうあまりに手を使ったきたない試合を見て、全部が全部この調子では日本チームはさぞ面食らったろうと思ったが、このゾーリンゲンでの試合を見てほんとうにほっとした。

帰りに「これが普通の試合か」と聞くと「そうだ」と答える。「きのう対戦した両チームはきたないのだ。レフェリーもきのうはうまくない」との話。身びいきもあるとは思うが、この話は確かなようである。しかしあれだけ手を使う反則をそのままにしておく審判、しかも一流チームの対戦の笛を吹く審判にそのような審判がいること。それに応じて？選手が非常にきたないことを平気ですること。これらのことは今後ヨーロッパに出かけ、またヨーロッパチームを迎え試合する場合、じゅうぶん心にとめておかなければならない。パリその他の都市で「日本チームはプレーがきれいだ」ということで名を売っているということも付記しておこう。

老人もボールを握る

ドイツにおけるハンドボールはほんとうに国民のスポーツになっている。日本の野球の場合と同じだ。ホームラン、ファインプレーのとき日本人がやるのと同じことを、シュート、インターセプト、キーパーの好守の場合にやっている。ハンドボール場の周りに車が並び、売店も出ている。老いも若きも試合を楽しみ、機会があれば自分でプレーをしている。合宿所でそこに来合わせた教師たちとともにプレーすることが二回あったが、五十を過ぎたおじいさん、おばあさんが一生懸命プレーをしている。得点でもしようものなら大変な喜びようだ。ここではほんとうにハンドボールを楽しんでいる。

海外通信

米国のハンドボール

▽…第4回北アメリカ室内選手権大会はさる5月、米国ニュージャージー州で行なわれた。参加チームは米国、カナダから各4チーム。試合は参加8チームをA、Bのグループに分け、次いで同順位チームで順位決定戦を行なう方式をとった。決勝はノートルダム・モントリオール（カナダ）対SC・エリザベス・ニュージャージー（米国）となり、ノートルダムが7—6（前半4—2）で勝ち、4年連続北アメリカ選手権を獲得した。大会は年々成長しているが、これは1962に西独のフライブルクチームが米国へ遠征した影響が非常に大きい。優勝したノートルダム・チームにはナショナル・プレーヤーが6人もいる。なお今大会で米国の女子チーム（2チーム）が初めて参加した。

欧州遠征から

すばらしい西独のダッシュ

うらやましい施設の充実

第一回世界学生選手権
全日本コーチ　勝　繁夫（立大OB）

○…ドイツは実に美しい。そしてすばらしい国である。スイスのアルプス山中に源を発して、北海にそそぐ伝統と歴史の中にはぐくまれたラインの流れ。そのラインの谷間の静かな町々。ぶどう畑の平和な眺め。そしてロマンチックな古城。清潔で整った通り。赤煉瓦を白壁にくっきりと窓を浮き出させた家々。その窓辺に飾られた色とりどりの草花。そして地味な屋根を整然とならべて、雑木の茂みの中にたたずんでいる眺めはまるでおとぎの国のようである。

たくましい胸を張って、いかにも規則正しい足どりで町往く人々は活気に満ちている。そして静かな落ち着いた町にも生気が感じられる。だが都会によっては、まだ戦火の跡も生々しく残って私たちの心を痛めさせている。どの町からも再興ドイツの力強い足音が響いてくるような気がする。

一にサッカー、二にハンドボール

０…186万の人口のハンブルグの一都市ですら、ハンドボールのクラブチームが40以上ある。ジュニアチームが250ほどあると聞かされて驚いた。だからどこであろうと、また年寄りや子供であろうと「ヤパン・ハンドバル・シュピーラ」と言えば、即座に反応がある。やはり首をかしげるよりはうれしい。そしてボールを投げる格好をして答えてくれる。なかには「おれも若いときハンドボールの選手をしていたが、君たちはパックシュートができるか」とゼスチャーよろしく、街頭で技術講義が始まったのにはまいった。ドイツでは「一にサッカー、二にハンドボール」といわれるだけあって、空地のあるところにはかならずゴールポストが並んでいる。一カ所に十いくつものコートが並んでいるのはまことに壮観であり、私たちにとっては全くうらやましい。町に建てられたしゃれた体育館も、実に経済的に合理的に設計されている。特に内部の設備が充実している。

国の経済力において日本より断然まさっているとは思えないのに、施設の面でこれだけの差があるのは伝統とか年数の差ばかりとは思えない。根本的なものの考え方によるのではないだろうか。

平素から基礎体力を

○…仕事を終えてからくるのだろう。夜の8時か9時ごろ雪の降るなかをバッグ一つ下げて体育館に集まる。それぞれ練習で一汗流し、そしてクラブの食堂でビールを一杯ひっかけて帰って行く。日本の練習及び試合におけるあの悲壮感というものは全然感じられない。これこそ心からハンドボールをたのしんでいる姿だ。

日本チームは試合及び練習前後に軽い徒手体操を主とした準備体操をやるが、ドイツチームは全然やらない。更衣室から出てそのまますぐゲーム開始。これには面食らった。これになれるまでには大変な日時がかかった。しかし私たちからみればふしぎに思える。それで「どうしてやらないのか」ときいてみたが、「そんなことしたら疲れて、後半動きが鈍くなるだろう」という。もう少し突っ込んできまきたかったが、どうやらうまく意味が理解してもらえないようだったのでやめた。また「いい選手というものはいつどこでも、ベストをつくせるだけのからだの調整ができていなければならない」とも言った。

ある学校の体育指導者は「日本チームのやるトレーニングは大いに興味がある」と関心を示していたことは事実である。彼らは平素の練習時に、じゅうぶんに基礎体力をつくるトレーニングを積んでいる。どこの体育館にも同じような数多くの器具が整っている。いったんトレーニングにはいれば、単なるベンチも一片の棒切れもたちまち器具と化してしまう。試合になるとプレーヤーは無表情になる。ただ黙々とプレーする。レフェリーのホイッスルのもとに…。だが観衆は目が肥えているからうるさい。チームの別なく、ファインプレーには惜しげもなく万雷の拍手を送る。だがレフェリーのミスジャッジでもあろうものなら、口笛を吹いたりしてやんやと騒ぎたてる。

アドバンテージの解釈

○…レフェリーのジャッジに関しては日本とさして違いはなかったが、ただひとつアドバンテージ・ルールの解釈の問題が気になる。この微妙な解釈、適用範囲の違いで、オフェンス、デフェンスにおけるプレーも大いに変わってくる。

たとえばプッシングされながら相手プレーヤーは味方にパスした。この場合日本では一応笛を吹かないでパスが正しく行なわれたかを見とどけて、即ち相手側に渡ったか、もしくは渡ろうとした場合笛が吹かれている。そのシュートのときも同じである。そのシュートされたボールがゴールインしなかったときは笛を吹いて、フリスローなり7メートルスローを与えている。ドイツにでは全くこれと同じ場面でパスなりシュートできた場合、レフェリー側からいえばパスなりシュートまでさせた場合、その瞬間にアドバンテージの適用は消滅する。だから、そのパスが正しく味方に渡ろうが渡るまいが、またそのシュートがゴールインしなくても関係ない。しかしもちろんそのプッシングなりの反則が継続することによって、パスなりシュートが不可能な場合はこれには当てはまらない。

日本ではこのアドバンテージ・ルールの適用範囲が広すぎるというのだろうか。だからボールを保持している側に、すなわち攻撃側にあまりにも有利に解釈しすぎているという感がする。

試合後の感想として二、三のプ

レーヤーに同じようなことをいわれた。それは「日本チームの選手はよく動く。しかしむだな動きが多い。そしてまたテンポが早すぎる」いうこと。そういわれてみると、確かに日本チームはハツカねずみのように動き回り、走り回った割にはチャンスがつかめなかった。ドイツ選手のようにここというときの鋭いダッシュは、ぜひ学びたいことのひとつである。ドイツ人の性格そのままのむだな動きやパスは絶対にしない。彼らのよく使うコーナーいっぱいへのパス、一見むだなように見えるが、このパスは次のシュートチャンスをかならず生みだしている。インターセプトしてから速攻に移るときのパス、たとえば中央ゴールエリアライン近くへ走る味方と、コーナーの近くへ走る味方があるとする。この場合カットされる危険度の高い中央の味方よりも、まずコーナーへ走る味方へパスする。相手バックスの体勢、タイミングをはずしてから中央へ返してシュートする攻撃はよく見られた。またシュートしたあとの帰陣。シュートされた後の攻撃の出足の速さ、キーパーとそのとび出した味方との呼吸のよさ。さらにフォワードとバックスとのコンビのすばらしさには舌をまいた。むだな動き、むだなパスがない。フォワード、バックス、キーパー7人の呼吸の合ったコンビがあってこそ、初めてスピード感あふれた真のハンドボールのだいご味といえるのだろう。

独人があこがれる日本

○…ドイツ人に会うと、日本の特に東京のことについて聞かれた。大部分の人は現在の日本の姿を正しく理解されてないのが残念であった。

「東京の人口は一千万」といえば、彼らは「君0がひとつ違うのじゃないか」と聞き返す。「いや間違いない」といっても信じてくれない。そこには感嘆とあこがれのような顔つきがある。自分たちの街を何倍かに拡大した美しい大都会を想像している。私はその目つきをみると、日本の恥部を見られているようなはずかしい気持になった。街に人があふれたあの雑然としたきたない東京を思うと、なんとかして彼らに「これが日本の首都東京です」と胸を張って見せる街にしたいと思った。

○…話のついでに、スイス国境近くのバーデン・オースから汽車でライン河に沿って北上し、ケルンまで一人で旅したときのこと。この列車はナポリ始発でイタリア、スイスを通ってきた国際列車だった。この列車は二晩を過しているのだが、通路はもちろん座席の下にも紙くずひとつ落ちていないのには驚いた。ちょうど昼ごろになり、前と隣りにいた出かせぎふうの若いイタリア人がトランクをあけた。そして洗面器ぐらいの大きなまるいパンとワインを出して食べ始めた。私はあの包み紙、パンくず、ビンの行くえを見守っていた。ところが元のトランクにしまい込んで持ち帰ったのには感心した。なるほどこれじゃ何日経っても車内はよごれないのも当然です。ドイツに一カ月近く滞在して感じたことは、彼らはまことに誇り高き人たちである。ドイツ人であることの誇りを秘めて、悠然とわが道を行っている。そして静かに落ち着いて、めいめいの生活をこよなくたのしんでいる。日本人の生活はいつもなにかに追いかけられている。こせこせとしていて、ゆとりというものがない。経済的にゆとりがないからか。それともせまいところに多くの人間がひしめき合っているせいなのか。

しかし親元を離れて親のありがた味がわかる。日本を離れてあらためて日本のよさがわかった。東京はきたないとは言いましたが、きたないことは別にして私にはやはり東京はいちばん住みよいし、世界一すばらしい都会だと申し上げたい。五年前ドイツチームが来日したとき、ある選手は口をそろえて「日本遠征は夢のような旅であった」と言っていた。日本は確かに夢のようにすばらしい国である。私たちはドイツ国内のあらゆる場所(街頭、電車の中、ホテル)で数かぎりない多くのドイツ人の心からの親切を受け、感謝の気持はもちろんむしろ申しわけないという気持ちでいっぱいです。この次に日本に外国チームを迎えたならば精いっぱい歓迎して、よき旅を続けてもらえるように願い、同時にそう努力したい。

第15回全日本総合ハンドボール選手権

立大（男子）大洋デパート（女子）が初優勝

大崎電気の2連勝ならず

屋外シーズンのメーンエベント、第15回全日本総合選手権大会は8月21日から5日間、新潟県柏崎市に全国の代表男子32、女子22チームが参加して開かれた。

男子は今季絶好調の立大（学連・東京）が強豪を連破、女子は常勝愛知紡が準決勝で敗れる波乱があったが、結局大洋デパート（熊本）が勝ち、それぞれ初優勝した。なお、男子は初めて7人制で行なわれた。

立大、大崎・全日体を連破……男子

男子

▽一回戦

大崎電気（東京）	棄権			安積ク（福島）
法大（東京）	棄権			甲南大（兵庫）
京都ク（京都）	24	11 13／13 9	22	教大（東京）
芝浦工大（東京）	28	13 15／6 2	8	東北学院大（宮城）
新三菱重工（愛知）	27	15 12／9 13	22	広島商大（広島）
法友ク（東京）	21	13 8／7 11	18	新潟教員ク（新潟）
日野自動車（静岡）	19	9 10／8 5	13	山口大（山口）
本田技研（三重）	30	15 15／10 2	12	柏崎高（新潟）
清商ク（静岡）	16	10 6／7 7	14	明大（東京）
住友化学（愛媛）	25	10 15／9 10	19	明石高OB（兵庫）
小倉工OB（福岡）	20	5 延長 7 8／2 8 7	17	氷見ク（富山）
全岐阜（岐阜）	33	18 15／6 6	12	柏崎ク（新潟）
明星ク（東京）	21	11 10／9 10	19	桜丘会（愛知）
立大（東京）	20	7 13／4 6	10	春日丘ク（大阪）
中大（東京）	15	8 7／7 5	12	山口教員ク（山口）
全日体大（東京）	28	18 10／4 6	10	桃山学院ク（大阪）

▽二回戦

大崎電気	31	17 14／3 8	11	静岡日野自動車
芝浦工大	45	24 21／3 5	8	本田技研
法大	25	12 13／8 7	15	中大
明星ク	30	17 13／11 8	19	全岐阜
清商ク	22	12 10／10 7	17	新三菱重工
京都ク	21	10 11／10 6	16	法友ク
全日体大	29	16 13／4 5	9	小倉工OB
立大	25	17 8／5 2	7	住友化学菊本

▽準々決勝

大崎電気	22	11 11／6 5	11	明星ク
立大	19	12 7／4 6	10	京都ク
芝浦工大	25	13 12／2 6	8	法大
全日体大	23	17 6／5 3	8	清商ク

○…各試合とも予想どおりの結果に終わった。京都クが立大に、清商クが全日体大に前半大いに善戦したのはほめてよい。後半スピードが落ちて大差とはなったものの、クラブチームの現状を考えれば両チームの活躍はりっぱ。

▽準決勝

立大 15（8 7／8 3）11 大崎電気

前半大崎はシュート数で立大を上回りながら凡プレーでチャンスを逸した。立大は屋内のコートに不慣れな面をみせたが、慣れるにしたがい安達、中根、江名のトリオが定評どおりの好プレーを展開した。大崎は前半、竹野の3点だけという不できがたたり野望は最初の関門でくずれた。

全日体大 17（7 10／8 5）13 芝浦工大

今季の芝浦工大は攻撃に変化がない。この日もすっかりサイド攻撃と忘れ、やたらに中央へ強引な突進をみるばかり。前半で勝負が決まってしまった。好カードも期待はずれの凡戦に終わった。

▽決勝戦

立大 18（0 2 延長 6 10／1 0 10 6）17 全日体大

○…試合は立ち上がりからすさまじい攻撃戦となった。

【立大】	S	反	得
安達	16	8	4
中根	6	2	4
江名	14	5	6
田村	2	1	2
斎藤	1	0	4
高久保	0	0	0
松本	3	2	3
西村	0	0	0
GK 尾形	0	0	0
	42	18	23

【日体】	反	得	S
久保田	1	0	1
青木	2	2	13
北山	4	2	9
東	1	4	5
藤原	1	0	3
井上	0	4	9
小林	1	5	15
蓮井	3	0	0
沢田	0	0	0
島崎（GK）	0	0	0
高橋（GK）	0	0	0
	13	17	55

2＝7メートルスロー＝2

決勝というと堅くなるものだが、この試合は両チームともその持ち味をじゅうぶんに発揮、目まぐるしくボールが回った。

しかし走り合いになると、現役学生の立大がOB六人を加えた全日体大を上回った。

時間の経過とともに、立大のゴール前の激しい動きは、全日体大のデフェンスを切りくずし、安達が得意のミドル・シュートを力いっぱいに投げ込んだ。4点をリードされた全日体大は、後半立大の安達とチャンスメーカーの中根をマークした。この二人の攻撃を封じたのは当然の策だ。立大の追加点をはばんでおいて、全日体は北山、小林のカットインなどでしだいにその差をつめた。このあたり、

いかにも試合上手な全日体大らしい攻防だ。

結果論になるが、前半全日体大がこの戦法をとらなかったのはまずかった。今季の立大は東西の強豪を「力」でなぎ倒してきただけに、全日体大があえて正面からぶつかったのは疑問を残す。ともあれ、後半16—15といちどは逆転に成功した全日体も28分16—16と同点にされて延長戦。

○…延長になると立大は再び鋭い攻撃をみせた。延長前半2分に江名が中央をうまく割ってシュート貴重な勝ち越し点をあげた。さらに4分、再び江名が右サイドから好シュートして18—16とした。延長後半全日体大は反撃をみせ、1分小林のゲットで18—17としその後に期待を残した。立大は守りを固めて全日体大に攻撃の糸口を与えず。マイボールになると巧妙にボールを回してついに逃げ切った。全日体大は「前半の4点差」に泣いたわけだ。

○…立大は第4回大会(昭27・駒沢)のときをOBまじえたセントポール・クとして一度優勝している。ことしにはいって関東学生、全日本学生に続き三つ目の優勝。2大全国タイトルをとったことになる。なお学生の現役チームが優勝したのは二年ぶり。

愛知紡、七連勝を逸す……女子

▽一回戦

栃木女高(栃木) 5(4—1 1—1)2 徳山高(山口)

東京重機(東京) 10(5—2 5—5)7 梅花ク(大阪)

水海道二高(茨城) 10(4—4 6—4)8 京都ク(京都)

レナウン(大阪) 23(15—1 8—0)1 全中京大(愛知)

清水女高(静岡) 11(4—1 7—2)3 高岡女高(富山)

徳山ク(山口) 11(4—2 7—1)3 西峰ク(茨城)

▽二回戦

愛知紡(愛知) 8(4—2 4—5)7 栃木女高

大崎電気(東京) 12(7—4 5—3)7 レナウン大阪(大阪)

東京重機 22(9—1 13—1)2 巻高(新潟)

清水女高 14(8—1 6—2)3 全新潟(新潟)

田村紡(三重) 15(6—2 9—1)3 日体大(東京)

常盤高(新潟) 6(4—2 2—3)5 日女体短大(東京)

大洋デパート(熊本) 8(6—4 2—3)7 徳山ク

レナウン東京(東京) 18(8—4 10—5)9 水海道二高

▽準々決勝

愛知紡 9(3—1 6—2)3 東京重機

レナウン東京 7(3—3 4—1)4 田村紡

大崎電気 22(13—2 9—3)5 清水女高

大洋デパート 19(9—0 10—1)1 常盤高

▽準決勝

レナウン東京 8(5—2 3—4)6 愛知紡

大番狂わせだった。この大会で六年間土つかずの愛知紡が遂に敗れた。レナウンの攻撃は鋭かった。気勢に押れて愛知紡はデフェンスラインがさがり、むりな防戦をしては7メートルスローをとられて失点を重ねた。しかも愛知紡自身は7メートルスローを2本も落としたのは、自ら敗戦の道を選んだようなものである。後半奮起して追いあげたものの、前半の7メートルスローの失敗を取り戻せなかった。レナウンは愛知紡にたいする研究もじゅうぶんで、シュート力、脚力とも完全に愛知を圧していた。この大会で常勝を続けて愛知紡を破るものは? という興味をなし遂げたのが、大崎でもなく、大洋でもなかったことに大きな意義があった。レナウンの気力をほめたい。

愛知紡は第9回大会(昭32)に初出場、一回戦で有磯高(富山)を7—2で破っていらい、前日まで22戦全勝という全日本の女王として君臨していた。「愛知紡」の名も「レナウン」の名も球史に残ることだろう。

なおこの試合、前半は屋外(柏崎市営陸上競技場)、後半は降雨のため室内(柏崎高体育館)に変更となった。

大洋デパート 9(5—6 4—2)8 大崎電気

愛知紡の敗れる試合を見ていた両チームは、最初からエキサイトし好ゲームとなった。

1点をリードされた大洋は後半、守りを固める一方、強引な攻撃をしかけた試合ぶりで慎重なローリングオフェンスをみせた。この作戦は成功した。大崎の守りが西村に集まりすぎるところを久連松、それに新人高山がよく働いて劣勢をはね返した。大崎としては後半2点だけというまずい攻撃が痛かった。大洋の西村、久連松、千原、徳永といったベテランにやられたといっていいだろう。

▽決　勝

大洋デパート 7(3—2 4—3)5 レナウン東京

○…大洋は全日本実業団(一月)で、苦戦している相手だけにじっくり攻め、そして守った。一方のレナウンは愛知紡を破って意気大いに上がったが、やはり初めての決勝進出とあって堅くなった。この〝経験〟の差がスコアになって、表われたようだ。

【大洋】	S	反	得
立　山	0	0	0
徳　永	3	0	5
桜　木	1	0	5
千　原	1	0	4
西　村	5	2	5
久連松	5	3	3
高　山	6	2	2
中　村	1	0	3
GK 木　原	0	0	0
3=7メートルスロー=3	22	7	27

【レナ】	S	得	反
渡　辺	4	1	3
太　田	6	3	0
風　岡	2	0	1
竹　本	1	1	5
林(悠)	1	0	0
斎　藤	2	0	2
川　上	1	0	0
林(優)	0	0	0
GK 山　田	0	0	0
GK 柿　沼	0	0	0
3=7メートルスロー=3	17	5	11

○…一進一退を続けたあと、前半18分大洋は久連松のシュートで3—2とリード。この1点は貴重だった。

後半にはいると大洋は相手の拙攻に乗じてたくみに得点機をつかみ、5分間に西村、高山、久連松が連続ゲット、6—2と開いて試合の主導権を握った。このあと大洋の攻撃が中断してしまったのにたいし、レナウンの攻撃にはようやくエンジンがかかった。その猛烈な追い込みは16分に6—5と1点差にせまり、決勝戦らしい白熱した攻防となった。

追撃の中心となったのは太田、竹本の二人だが、この後半10分間にみせたレナウンの攻撃は実にあざやかだった。しかしレナウンはあせりからか、チャンスをラインクロスやオーバーステップなどで逸した。逆にタイムアップ寸前にゴール前の反則から久連松に得点を許してしまった。○…○宿願を果した大洋は接戦のすえの勝利だけに、試合後の感激もひとしおだった。昨年あたりに比べて攻撃が多彩になり、久連松に安定さが出てきたのが大きい。いつもながら沈着な判断と気力のある防御をみせにGK木原のプレーも賞される。新人高山(菊池農蚕高)がベテランにまじってチャンスに好シュートを放って得点をあげていたのも勝因の一つである。

総評

力の差がなくなった上位

高嶋洌



第15回大会は誕生まもない新潟県協会の努力と、県市の絶大な後援により初期の目的を達成してその幕を閉じることができた。全体を通じて合格点をつけるにやぶさかではない。むしろ運営に当たった地元の諸兄には感謝の念でいっぱいです。にもかかわらず最後には、なか心にひっかかるものがあるのはどうしたことか。それは二つのチーム（安積クラブ、甲南大）が棄権したことである。

そもそも予選または推薦によって出場権を獲得し、かつ自らの手で申し込み書を作製しながら組み合わせ発表後に棄権するとはどうしたことなのだろうか。これらチームの責任者は推薦にもれ、不幸にして予選を通過しなかった多くのチームが、いかにこの大会への参加を熱望しているかを知っているのだろうか。次回より再びこのようなことが繰り返されてはならない。32チームは万全の準備をして大会に出場し、堂々と技をきそうことが、この競技を愛する幾万の同士に対する責任、義務であることを忘れてはならない。

○施設について

全体を通じてよくまとまり、申しぶんないできであった。しいて難点をあげるならば、海岸公園コートがやや軟弱なきらいがあった。これもコートを極力至近距離に集中しょうとして、多大な費用を投じて埋め立て工事を促進したことを考えるとプラスマイナスである。陸上競技場の使用については、今後既設スタンドの利用を考えるべきであろう。この競技は近くで見て初めてスピード感があふれ、スリルに富むものである。

▽運営について

月橋市事務局長、渡辺県協会理事長の指導のもとに県協会役員と市職員が一体となって運営に当たったことに対して、深く敬意を表するものである。またチーム世話係りの陰の苦労や、ハンドボール少年団のエキシビションゲームなど歴史の一ページを飾るものと考えてよかろう。

▽競技について

（女子）

大方の予想を裏切って、大洋デパート（熊本）が初優勝をなしとげ、栄えの優勝杯は初めて関門海峡を渡った。これはひとり大洋ばかりでなく、球界にとって大きな意味を持つものである。上位数チームはほとんど力の差がなくなり、一日たりとも精進、努力を怠たることができなくなった。このなかにあってレナウン工業東京東京重機工業の躍進は特筆大書に価する。組み合わせに恵まれたとはいえ、誕生いまだ一歳に満たない東京重機が準々決勝まで駒を進めた。これは将来の限りなき可能性を見出すのは、ひとり筆者ばかりではあるまい。またレナウン東京は常勝の愛知紡に対して奇策をろうせず、正面から堂々と四つに組んでこれを破った。期待に反し精彩を欠いたのが愛知紡績、大崎電気であった。敗因はいろいろ検討し尽くされているであろうが、両者に共通して言える欠陥はチャンスにロングシュートのなかったことである。相手ディフェンスの沈んだとき、あるいは一瞬のすきをついて放たれるロングシュートはハンドボールのオフェンスにおける鉄則である。ロングシュートを忘れたチームは、歌を忘れたカナリヤよりもみじめである。

（男子）

予想どおり実業団の大崎電気、クラブチームの全日体大、大学単独の立大、芝浦工大の4強が準決勝に進出した。前年度優勝の大崎電気をくだした立大が初優勝した。現役学生のみによる大学チームとしては芝浦工大の三連勝についで四度目である。立大は春のリーグ戦、初夏の全日本学生選手権当時と比べ一段と円熟味を加え、終始自己のペースをくずすことなくゴールインした。秋から冬にかけての躍進がたのしみである。

前年の覇者大崎電気は立大の前に実にあえなく敗れ去った。あれだけのベテランぞろいでどうしてチェンジ・オブ・ペースができなかったものか。技術や戦術のほかに敗因がひそんでいるような感じをうけた。また立大に決勝で負けた全日体大。全日体大はともによく走る技術を見せてくれた。しかしながらもう一歩のところで刀折れ矢尽きた感じであった。

――終わりに――

7人制一本化後における初の大会であったが、各チームとも総じて研究努力の跡がうかがえたのはよろこばしいことである。以上あげたチーム以外にも、女子で田村紡績、男子で住友化学、本田技研、新三菱重工、静岡日野自動車などが将来へのたのしみを与えてくれた。しかし、これらのチームは小さくまとまりすぎたようだ。特に田村紡績はせっかくよい素質を持ちながら、むだなローリングプレーで自滅した。

ともかく今回の大会の特徴は、上位チームの間にほとんど力の差がなくなったことである。これは技術の向上を意味するものである。お互いが切磋琢磨して、より大きな目標に向かって前進しようではないか。大きな目標とは、いうまでもなく〝世界制覇〟である。

7人制になって九カ月

7人制に切り替わって九カ月たった。その間各チームは連日7人制をマスターするために努力を続けてきた。そこで7人制でインターハイ初優勝の桜台高の稲石監督、それに実業団No.1の大崎電気（男子）の今野監督に「7人制の問題点、苦労した点」についていろいろときいてみた。

初の7人制インターハイに優勝して

桜台高監督　稲石三二

昨年の第17回国体会場で共同通信社の鷲尾記者、神代高の佐野先生から「三十八年度から全面的に7人制になる」との話しを聞いたとき、11人制で育ってきた私には少なからず不安があった。

過去の国際試合の内容など考えてみたとき、日本もこれで外人と対等にやれるようになるのには十年遠のいたような感に打たれた。しかし反面スリリングな試合が多く展開され、ハンドボール競技を大衆に訴えるのにはたやすくなったのは事実である。いままでの競技は守備、攻撃に分けた練習で、興味よりも鍛錬的な練習であった。選手は練習よりも試合に競技的なよさを見い出そうとしていた。しかし広大な場所を有することはむずかしく、公式戦でその興味をつないでいたのが現状であった。

しかし今日では安易に行なわれ、硬軟二様の練習形式をもつようになった。愛知県でも7人制になってから十余のチーム増加をみた。この切り替えは成功であったといえる。したがって練習法もインターバル走法に変え、いままで以上の基礎の充実。加うるに反射神経の練磨とシュート力の養成につとめ、体力的な差の特性を生かしてチームをまとめた。まずデフェンスを強くすることを急務と考えた。全国大会に参加して東住吉、寝屋川、伏見工、明星、徳山高などの巨人ぞろいには驚き、先に心配したこともむだであるのに気づいた。数年後には外人と対等にやれること間違いなし。しかし走力、投力に未完成のため、中途で消えていったのは寂しい。

あのような巨人たちがタイトルをとるようになれば、日本ハンドボール界も万々歳といわねばならない。準決勝、決勝は前半なかば6―2にはとリードされ薄氷を踏む思いをしながら優勝した。準決勝、決勝とも最後には体力、気力尽き果てた選手の様子はまだ脳裏にきざみ込まれている。六日間を勝ち抜くことは大変でした。昭和33年から36年の間中京商に完敗。また35年、36年決勝で1点差に泣いた。このときはこの1点が磐石の重みで頭上にのしかかっていたことか。勝負には勝運、実力、指導者といわれるが、常にリードを守りながら最後の5分に泣いたものである。実に苦しい年でした。

昨年度の勝利はともかくとして、7人制に大会で初優勝した選手に心から〃おめでとう〃といってやりたい。苦しみにたえ抜いて今日あることを念じ、ひたすら練習を続けてきた涙と汗の体験なくしてはこの感激も薄かろう。30年ごろはこんな感激はなかったものだ。〃栄冠涙あり〃感慨をこめて心の中で静かにかみしめてもなお味のある言葉である。長い年月には浮沈は世の常。たゆまぬ努力を重ね、日本ハンドボール界のために努めたいと思います。さて技術的にはどうであったか。大それたことを申しあげるようですが、技術的には紙一重。伏見工、明星のダイナミックなプレー、寝屋川の高校ばなれのしたポストプレー、実によく練磨されていた。しかしポイントが二、三人にしぼられていたのは惜しまれる。サイド攻撃が少なかったように思うが、しかし中京商と並び技術的には本校をしのいでいたようだ。技術、スピードの

就任のあいさつ



より広い大衆の理解を

福岡県協会長　岡野正実

スポーツについてはなんでも興味をもっていますが、現在お世話をしているものは地元のゴルフクラブぐらいなものでした。ところがこんど福岡県協会の会長という大任を命ぜられて、いまさらながらその責任の重大なことを痛感しています。

実は私は全くのしろうとです。みなさんのお世話などするがらではありませんが、諸先輩のご支援とご協力により球界の発展のためつとめたい念願であります。

日本におけるハンドボールの発展の道程をたどり、かつその現況を知るとき、ハンドボール界今後の発展はいかにあるべきか、またそのために私どもはいかにつとむべきかはなかなかむずかしい問題であろうと思います。

ハンドボールの発展のためには、なによりもより広い範囲の大衆の理解が必要であろうと思います。そのためには青少年の諸君に普及させ、幅広い認識の層をつくりだすことであります。そうして学校はもちろん、実業団の積極的な活動によって発展をはかるべきであると考えます。この点では特に東京都協会の渡辺会長のご努力には敬服のほかありません。わが福岡県は西日本におけるスポーツの中心県として自他ともに許す立場にあります。ハンドボールも他県に比し、やや積極的な状況にあります。しかしながらまだまだ発展の余地を多分に残していると思います。私どもは近県の各協会と協力して、より広範な地域での発展を期するとともに国内はもちろん国際的連係への度合いを深めて行くべきであります。このたびの韓国高校チームの来訪もこの意味で非常に意義がある次第です。

私はハンドボールの発展のためにつくすことを重ねてお誓いする次第であります。

筆頭は中京商である。準決勝で中京に敗れた徳山もまた7番の使いすぎで自滅したのは惜しい。論ずるまでもなく7人制の前途は各チームの実力の接近、スピード、スリルと相まって得点力の増加はますます隆盛の一途をたどること間違いなしである。しかしここで問題は選手の健康管理については監督、大会役員ともにじゅうぶん注意して傷害、事故がないようにしたい。

攻守両面の選手養成 オーソドックスに

大崎電気男子監督　今野邦彦

選手は一試合をとおして走る体力を身につけなければならない。そこで4月から約1カ月間は耐久力、基礎的に重点を置いた。

それにはまず1日の日程はロードワークを各自のペースで行ない、約7、000―8、000メートルを毎日走る。さらに柔軟体操、ボールの勘を忘れないようにキャッチボールを行なった。トレーニングは11人制とは変わっていない。勤務の関係で小人数での練習が多く、今後の実業団の苦しさがこの点にあるのではなかろうか。

6月にはいりチームプレーを目標にした練習にはいった。いままでは各自が自分のプレーを磨くことに専念したので、基礎的な面はでき上がっていると判断した。11人制と変わりなく、準備体操、走力のスピード制、投力、ジャンプというように形式的に練習を一日の日課として行なった。具体的に内容を説明すると、走力は相手のシュートと同時に相手側のゴールに向かって走る力が主である。投力はゴールエリアのあらゆるところから、どのような体勢からもゴールに向かって投げることを練習した。それには前方にデフェンスの人を立たせることもあった。またゴールキーパーを二人立たせることもあった。さらにエリアの内にとび込むこともあった。したがっていままでのべたことは11人制とほぼ同じことです。私たちのチームのように小柄な選手が多いチームは、自然とダイナミックなプレーは姿を消さなければいけない。これは7人制にとっては弱点と知りつつ、そのように持っていかなければならなかった。7人制にはダイナミックなプレーがあって初めておもしろみがある。それでわれわれのチームのように小柄な選手はブロックプレーを有効に使うこと。ポストプレーを有効に使うことが進む道と思った。デフェンスであるが、11人制のデフェンス専門の選手は近いうちに消えると思われる。そこでオフェンスの選手がデフェンスもできるようにその点に重点を置いて練習した。そうしてオフェンスとデフェンスを合わせたプレーができる選手を作ろうと思った。だがこの二カ月の間では不可能であった。それと同時にデフェンスとゴールキーパーのコンビネーションが大切になってきた。たとえば思い切ってゴールキーパーがとび出ることのできる状態に瞬間的にすること。それは右側なら右側にいるデフェンスの一人がゴールキーパーの役目をして防ぐこと。そうするとゴールキーパーは左側を防御すればいい。八月までそのような方針で進んだ。全日本大会の二週間前において練習は試合形式に変わった。二月から八月までの間に実戦の経験がないため、実戦的な勘は出なかった。その結果が全日本の敗戦につながった。こんごの方針として実戦的に練習を持って行くことが大切である。いままでのことを大別すると、

一、耐久力は年間を通して行うこと。

二、オーソドックスなプレーを各自が身につけること。それに小さいプレーを織り込むこと。

三、デフェンス、オフェンスをできるようにすること。

四、実戦的な勘を失なわぬこと。

それで私たちのチームは実業団なので、二月から八月の間まで試合がないので自然に実戦的の勘がら遠くなって行く。その点をじゅうぶん気をつけなければいけない。それからあまりオーソドックスになると、ハンドボールが長年追求してきたスピード感というものが失なわれる。こんご私たちは新しい時代の波に押し流されないように、新しい分野を切り開いて行きたい。

ポストプレーが勝敗を決す

法大監督　安藤純光

▽…25年にわたる11人制の歴史にピリオドを打って7人制一本になった。そして9カ月を経過した。

7人制への切り替えの大きなねらいの一つには、日本のハンドボールが世界のレベルに一日も早く到達することにある。はたして本来の7人制ハンドボールの技術、戦術、試合運びが順調な発展をしているであろうか。わずか9カ月でこれを論ずることは適当ではないかもしれない。本年度のスケジュールの大半を消化した。全日本学生、全国高校、全日本総合、国体などの大会を終わったところで、いままでの大会を反省しあすへのかてとする必要もある。

▽…7人制の生命は、スピードとスリルの連続であるということは周知のとおりである。この点はどのていど受け入れられているであろうか。確かに相手のボールをカットしてからの速攻には、非常にスピードのあるプレーが見られる。しかし相手がセットを組んでからの攻撃は、上位進出のチームを除いては必ずしもスピード感のあふれたプレーが展開されているとはいえない。早い正確なパスと敏捷な動きが、さらに要求されるべきであろう。

ほとんど全部のチームが攻撃の手段としてポスト・プレーを用いている。そしてこのポスト・プレーの巧拙が勝敗を決する大きな分岐点になっている。せっかくポストにはいったボールが、なんらなすところなくもとに戻される。またむりなパスをするために相手にカットされ、反撃の糸口を与える場面がしばしば見られた。

また11人制の名残りと思われるようなドリブルを使っての突っ込みや、シュートがかなり行なわれている。ボールが出てからシュートにいたるまでの運びが、単純なためにシュートの成功率が低いチームが多い。ボールを持ったらすばやい正確なパス・ワークと動きによって、相手のマークをはずしてシュートのチャンスを作るように考えるべきではないだろうか。

ディフェンスについても、4―2、あるいは5―1のシステムが多くのチームに用いられている。概して研究不足の点が多く見られる。ゴールキーパーの防御の位置およびその防御方法についても、さらに研究しなければならない点が多い。

▽…全日本学生、全日本総合の二大タイトルを獲得した立大は、これらの点についてより研究され、練習されたチームであるということがいえる。立大の試合運びは多少の異論があるにしても、その大きなパスワーク、サイドまで拡大された攻撃は他のチームに一歩抜き出たものがあった。

柔道を追い抜いたハンドボール

楽書帖 第17回

鷲尾武治

▽…ＩＯＣ総会でハンドボールがまた除外された。除外するスポーツの表決で1位が柔道の37票、ハンドボールは33票だった。同僚の柔道担当記者は「柔道は37票でハンドボールよりも悪いとは情けない。バレーボールには負けてもいいが、ハンドボールだけには勝ちたかった」と暗い表情。私は言った。「ハンドボールはヨーロッパが本場だよ。次期オリンピックがリヨン（フランス）だったら開催種目になっていたところだ。ハンドボールはベルリン・オリンピック大会でオープン競技として公開された歴史があるんだ。柔道とは比較にならんよ」。柔道より評判のいいハンドボールの話。

▽…東京都協会長の渡辺和美氏（大崎電気社長）は「東京都協会の建て直し」の手始めにして、定例理事会の欠席をきびしく取り締まることにした。〃連続三回欠席の場合は理事の資格をはく奪する〃……つまり肩書きだけあっても、実際に協会の運営にタッチしない役員は無用であるというもの。やる気のある人たちで再建しようというのが渡辺会長のねらい。おかげで社長室で開く理事会は毎回出席率がいいとか。「東京都協会がしっかりしないと、ハンドボールの組織は弱くなる。会長を引き受けた以上はトコトンまでやる。日本協会の力をさらに大きく強くするためには下部組織の伸張がカギである。日本協会の年間予算もあのていどではなにもできない。下部組織がしっかりしないとどうにもならぬ」とものすごい意気込み。

▽…少し古い話（といってもことしですが）だが。ＮＨＫテレビ「私の秘密」のゲストにヒマラヤのホワイト・ピークに登頂した人が出た。この人の秘密をめぐって解答者との間にやりとりがあった。そのなかでゲストの人が「スポーツですが、オリンピック種目ではない」と言ったら、解答者の渡辺紳一郎さんがすかさず「それはハンドボールですか」と答えた。これをきいた私は実のところびっくりした。渡辺紳一郎さんがハンドボールを知っていたのに敬服した。渡辺さんはわれわれ新聞記者の大先輩である。普通の人ならハンドボールまで思い出さない。渡辺さんがハンドボールという競技が日本にあることを知っていたことは、ハンドボールがマイナースポーツでないことを証明したようなもの。もっとも式場会長が以前に新潟県で行なわれたこの「私の秘密」に解答者として出席した影響かもしれない。いずれにせよＮＨＫテレビの電波を通じて「ハンドボール」という言葉が聴視者の耳に達したことは事実である。その夜はうれしくなつてビールで乾杯した。

時評

プラハ大会で大暴れ

名門慶大よ！　がんばれ

▽…日本のハンドボール界が待ちあぐんでいた「オリンピック種目の採用」が十月のＩＯＣ総会（西ドイツのバーデンバーデン）でまたも除外されてしまった。見送りの三振である。高嶋理事長が昨年ヨーロッパに遠征したとき、国際ハンドボール連盟、フランスハンドボール協会の首脳部にこのことを打診してきた。「ソ連がリヨン開催に協力してくれることになっている。そうなればハンドボールは有望です」との返事をきいていたから、少しは望みをかけていたわけ。ラテンアメリカでのオリンピックは初めて、これではハンドボールのはいる余地はない。新聞報道によると表決、つまり不必要なスポーツには「×」をつける方式。柔道が37でいちばん先にオミットされ、バレーボールは25票とか。ハンドボールは二番目で33票と外電は伝えている。柔道よりもよかったことは、せめてものの慰めである。

▽…来年三月プラハの世界7人制選手権大会に日本が二度目の参加を決めた。オリンピック参加の望みが断ち切られた現在、この大会で大いにあばれ回ってきてほしい。協会ではこの参加を決めた直後から選手選考委員会を設けた。これは各種の全日本大会の優秀プレーヤーを二十人ほどピックアップし、あらゆる角度から検討し、採点している。協会が世界選手権に本腰を入れた証拠だ。この資料を参考にして全日本チームを編成するわけだが、なにしろ貧乏世帯の協会のこと。全日本選手団全部の旅費を負担するわけにはいかない。優秀選手のなかから自費を捻出できるものに限定されてしまう。

これは仕方のないこと。協会自体が裕福なら別段問題はないのだが…。頭の痛い話である。海外遠征の費用があれば「片寄った編成だ」といわれなくてもすむものを…。

▽…慶大は春の関東リーグで最下位となり二部に転落した。それで夏に鍛えようというわけで7月19日から約1週間、東京ー大阪間徒歩による踏破を試み、途中各地のクラブチームなどと試合を行う〃荒行〃をやった。慶大といえば国内最古の部歴を誇る名門、精神的な建て直しをはかってことらしい。きくところによると徒歩計画は大会前からあったとか。となれば慶大は始めから全日本学生で勝ち抜こうという気がなかったことになる。最近の学生の大会は星勘定に汲々としている。最大目標の「優勝」を始めから望まず、リーグ戦なども一部の学校だけが優勝を望んでいる。とうてい歯が立たないと思うと一部に残る星勘定ばかり気にする。慶大の場合などそのよい例ではなかろうか。学生界全般に、精神的なゆるみが感じられるのは残念なことである。

ものの増強ももちろん必要であるが、むしろいかにダッシュに移るか—言いかえればスタートをトレーニングするのが良いと思われる。スタートダッシュの重要性はいまさら言うまでもない。いまかりに一〇〇メートルを12秒で走る選手Aと13秒かかる選手Bとをくらべてみれば、明らかにAの方がBよりも速い。しかし、同時にスタートしたとしてもゴールでの差はわずかに1メートルにたらない。ハンドボールにおけるダッシュは前述のように20メートルないし30メートルであるから、その差はいよいよちぢまり—もちろんその差が大切でもあり、速い方がおそいのにくらべて有利なことはいうまでもない—スタートダッシュの早い方がより有利になる。前記のA、B二選手の走力で30メートルのダッシュに要する時間はそれぞれA…3秒6、B…3秒9でその差は0秒3である。従ってBがAより早くボールに触れるためには、スタートをする時間を0秒4早くすれば一瞬の差でせり勝つことが可能である。同一の走力を有していたならば、0秒1でも早くスタートすれば、しゅうぶんであるともいえよう。ボールゲームではスタートダッシュを早くすることは、いわゆる〝勘〟といわれるものに左右される。トレーニングの面から考えると、瞬発力を強めることが必要と考えられる。力が0の状態から要求されるに必要な全力を発揮するまでに要する時間が短ければ短かいほどスタートが早くなる。強い筋力を持っていてもその筋力を発揮するまでの時間が長いということは、ボールゲームでは役にたたない筋力となってしまう。

実際のゲームにおいて、相手より0秒1早くスタートすることは決してやさしいことではない。これをカバーするためにはスピードが0からスタートするよりも、スタートの際に少しでもスピードがある状態であることが必要になってくる。そしてそのスピードが相手より少し優っていればじゅうぶんである。ゲームの分析においても、走りⅠの動作はその大部分がフットワークである。走りⅡから行なわれていることは、スピードのある状態でのスタートダッシュを表わしているといってよい。

走の持久性を高めるためにはインターバルトレーニングが有効であろう。(インターバルトレーニングには目的によっていろいろなやり方があるが、この場合はスピードの持久性を高めるようなインターバルトレーニングと考えていただきたい)。インターバルトレーニングの方法は、陸上競技の短距離におけるトレーニング方法がよい。しかしハンドボールの走におけるインターバルトレーニングでは、ハンドボールの特殊性を考慮して実施する必要がある。すなわちインターバル中の動作についてである。この動作について研究し、より実戦的な方法を見出するようにすると効果が大になる。さらに基礎体力的な持久性を高めるためには、サーキットトレーニングが有効である。サーキットトレーニングにおいても選手個人、チームの状況に応じて、誤りのないスケジュールを組まねばならない。

前号でも述べたが、あくまでもボールゲームであるからボールハンドリングの技術との関連性を無視してはならない。目をみはるようなスタートダッシュも、ボールがこれにともなわなければいたずらに走るということに終わる。

ハンドボールの技術の一つとして有効ではない。このことは非常に重要であるので再び述べる次第である。フットワークはダッシュが自動的な動作であるのに対して受動的な動作といえよう。相手をガードし、あるいはガードをはずすためには常に相手の動作(フットワーク)によって制限される。フットワークでは敏捷性と、ダッシュ以上の瞬発的な力が要求される。さらに同一の姿勢(構えの姿勢)を数秒間保持しなければならない。ここでは筋力の持久性が必要とされる。今回の分析ではフットワークにおけるスピードは分析しなかったが、おそらくダッシュ以上のスピードが発揮されているのではないだろうか。フットワークに必要な体力的な要素を分析することはむずかしい。ただトレーニングからみれば、フットワークにおいてもインターバルトレーニングを考える得る。そして基礎体力としては脚力の養成が必要であろう。

前号の「世界の王座を目標に」の中にも、各チームの監督はチームの強化に努力している。持久性(全身及び筋)、敏捷性、筋力(瞬発力も含む)、柔軟性などの体力をいかに効果的に、しかも短時間で、さらにハンドボール技術に結びつけて実施されているかがうかがわれる。一日も早くハンドボールのトレーニングが確立されるよう念願する。

この文をまとめるにあたっては、前号同様の各先生方のご指導をいただいたことに感謝します。

話題のチーム⑯ 岡野バルブの巻



▽…「岡野バルブってどこのチームだい」——よくこんなことをきかれる。「門司にある。正確にいえば北九州市門司区さ。門司駅から徒歩2分」と説明する。門司駅からタクシーに乗り、「岡野バルブへ行ってくれ」と言ったら、運転手いわく「歩いた方が早いですよ」というエピソードをつくり出してくれるチーム。このチームは岡野社長、岡野専務の温かい援助の手の中で育ってきた。岡野専務は九州帝大時代はスポーツマン、したがってハンドボールに対する理解も深い。チームの責任者は小野信監督。小倉工業高校の卒業生が入社したのがきっかけ。小野監督は言う。「①ハンドボールをやる者が少ない。②会社にコートがない。③門司には練習相手がいない。④指導者がいない。⑥私はボールひとつ握ったことのないズブのしろうと。」……ないないづくしのチームもちょっと珍しい。チームができて二年半、その間小倉工高の岡井幸由先生の指導で腕をあげてきた。いまは小倉工高のOBがチームの中心勢力となっている。昨年韓国に遠征した全日本高校チームの一人、矢島君の入社は大きな戦力となっている。18—20歳と若さを売り物にしているチームである。昨年岡野専務は「三年後には実業団No1になる」と張り切っていた。チーム全員は岡野専務のこの言葉に刺激され、山口国体の代表となった。小野監督は「11人制から7人制に切り替ってよかった。打倒大崎電気が目標です」とすごい意気込み。

柔道を追い抜いたハンドボール

楽書帖　第17回

鶯尾武治

▽…IOC総会でハンドボールがまた除外された。除外するスポーツの表決で1位が柔道の37票、ハンドボールは33票だった。同僚の柔道担当記者は「柔道は37票でハンドボールよりも悪いとは情けない。バレーボールには負けてもいいが、ハンドボールだけには勝ちたかった」と暗い表情。私は言った。「ハンドボールはヨーロッパが本場だよ。次期オリンピックがリヨン（フランス）だったら開催種目になっていたところだ。ハンドボールはベルリン・オリンピック大会でオープン競技として公開された歴史があるんだ。柔道とは比較にならんよ」。柔道より評判のいいハンドボールの話。

▽…東京都協会長の渡辺和美氏（大崎電気社長）は「東京都協会の建て直し」の手始めにして、定例理事会の欠席をきびしく取り締まることにした。〃連続三回欠席の場合は理事の資格をはく奪する〃……つまり肩書きだけあっても、実際に協会の運営にタッチしない役員は無用であるというもの。やる気のある人たちで再建しようというのが渡辺会長のねらい。おかげで社長室で開く理事会は毎回出席率がいいとか。「東京都協会がしっかりしないと、ハンドボールの組織は弱くなる。会長を引き受けた以上はトコトンまでやる。日本協会の力をさらに大きく強くするためには下部組織の伸張がカギである。日本協会の年間予算もあのていどではなにもできない。下部組織がしっかりしないとどうにもならぬ」とものすごい意気込み。

▽…少し古い話（といってもことしですが）だが。NHKテレビ「私の秘密」のゲストにヒマラヤのホワイト・ピークに登頂した人が出た。この人の秘密をめぐって解答者との間にやりとりがあった。そのなかでゲストの人が「スポーツですが、オリンピック種目ではない」と言ったら、解答者の渡辺紳一郎さんがすかさず「それはハンドボールですか」と答えた。これをきいた私は実のところびっくりした。渡辺紳一郎さんがハンドボールを知っていたのに敬服した。渡辺さんはわれわれ新聞記者の大先輩である。普通の人ならハンドボールまで思い出さない。渡辺さんがハンドボールという競技が日本にあることを知っていたことは、ハンドボールがマイナースポーツでないことを証明したようなもの。もっとも式場会長が以前に新潟県で行なわれたこの「私の秘密」に解答者として出席した影響かもしれない。いずれにせよNHKテレビの電波を通じて「ハンドボール」という言葉が聴視者の耳に達したことは事実である。その夜はうれしくなつてビールで乾杯した。

時評

プラハ大会で大暴れ

名門慶大よ！　がんばれ

▽…日本のハンドボール界が待ちあぐんでいた「オリンピック種目の採用」が十月のIOC総会（西ドイツのバーデンバーデン）でまたも除外されてしまった。見送りの三振である。高嶋理事長が昨年ヨーロッパに遠征したとき、国際ハンドボール連盟、フランスハンドボール協会の首脳部にこのことを打診してきた。「ソ連がリヨン開催に協力してくれることになっている。そうなればハンドボールは有望です」との返事をきいていたから、少しは望みをかけていたわけ。ラテンアメリカでのオリンピックは初めて、これではハンドボールのはいる余地はない。新聞報道によると表決、つまり不必要なスポーツには「×」をつける方式。柔道が37でいちばん先にオミットされ、バレーボールは25票とか。ハンドボールは二番目で33票と外電は伝えている。柔道よりもよかったことは、せめてものの慰めである。

▽…来年三月プラハの世界7人制選手権大会に日本が二度目の参加を決めた。オリンピック参加の望みが断ち切られた現在、この大会で大いにあばれ回ってきてほしい。協会ではこの参加を決めた直後から選手選考委員会を設けた。これは各種の全日本大会の優秀プレーヤーを二十人ほどピックアップし、あらゆる角度から検討し、採点している。協会が世界選手権に本腰を入れた証拠だ。この資料を参考にして全日本チームを編成するわけだが、なにしろ貧乏世帯の協会のこと。全日本選手団全部の旅費を負担するわけにはいかない。優秀選手のなかから自費を捻出できるものに限定されてしまう。これは仕方のないこと。協会自体が裕福なら別段問題はないのだが…。頭の痛い話である。海外遠征の費用があれば「片寄った編成だ」といわれなくてもすむものを…。

▽…慶大は春の関東リーグで最下位となり二部に転落した。それで夏に鍛えようというわけで7月19日から約1週間、東京—大阪間徒歩による踏破を試み、途中各地のクラブチームなどと試合を行う〃荒行〃をやった。慶大といえば国内最古の部歴を誇る名門、精神的な建て直しをはかってことらしい。きくところによると徒歩計画は大会前からあったとか。となれば慶大は始めから全日本学生で勝ち抜こうという気がなかったことになる。最近の学生の大会は星勘定に汲々としている。最大目標の「優勝」を始めから望まず、リーグ戦なども一部の学校だけが優勝を望んでいる。とうてい歯が立たないと思うと一部に残る星勘定ばかり気にする。慶大の場合などそのよい例ではなかろうか。学生界全般に、精神的なゆるみが感じられるのは残念なことである。

第[illegible]回全日本学生選手権

立大、会心の初優勝飾る

第6回全日本学生選手権は7月15日から5日間、東京四谷の外濠公園コートで21校が参加して開かれた――。

▽一回戦

中京大 34（18―8 16―3）11 神戸大

甲南大 25（13―11 12―11）22 東京大

早大 31（12―9 19―7）16 京大

関大 27（13―14 14―10）24 教大

広島商大 24（13―8 11―9）17 東北学院大

▽二回戦

芝浦工大 31（17―6 14―8）14 中京大

早大 19（9―11 10―5）16 関学

法大 33（18―8 15―6）14 大阪経大

立大 25（16―6 9―4）10 関大

広島商大 16（6―7 10―8）15 中大

同大 21（12―4 9―7）11 明大

慶大 29（14―10 15―10）20 立命大

日体大 31（14―7 17―6）13 甲南大

〇…立大―関大は東西の優勝校同士。前半関大バックスが健闘して後半に興味をつないだが、立大は時間の経過とともに攻撃の調子があがり、後半は小きみよい速攻を連続させた。関大は立大に比べるとすべてにテンポが遅く、最近の東西の差をみせつけた試合だった。

▽準々決勝

芝浦工大 25（13―8 12―5）13 早大

早大がどこまでやるかに興味があったが、芝浦工大のワンサイドに終わってしまった。芝浦の住広―青木のコンビはいい。

立大 26（15―8 11―2）10 法大

勝負は前半で決まってしまった。立大のエース安達のロングシュート、これはコントロール、スピードがあってすばらしい。

広島商大 21（10―9 11―6）15 同大

四月の西日本学生の準決勝で顔が合い、18―15で広島商大が勝っている。同大としては、ぜひとも雪辱したいところだったが、試合は広島のペースとなった。後半同大は追いあげたが、逆転するにいたらなかった。

日体大 34（19―6 15―8）14 慶大

慶大の善戦もむなしく、ダブル・スコア以上の差となった。春のリーグ戦に比べ、慶大はかなりよくなった。

▽準決勝

立大 16（9―4 7―11）15 芝浦工大

新調のユニホームを着てはりきる芝工大、リーグ戦に続き連勝を狙う立大。

しかし、試合のペースは芝浦工大がにぎり、前半の4点差は立大にとってかなりの負担となるかにみえた。この試合の圧巻は後半の立大の反撃にあった。後半まず江名、中根が中央から強引に連続ゲット、9―11としたあと安達―江名のコンビ10―11で。さらに10分7メートルスローを成功させて同点となった。この10分間、芝工大が無得点に終わった。これは立大のすさまじい気勢に押れ、自らのペースを狂わしたからであろう。

それ以後は一進一退。しかし残り3分のときに芝浦工大は14―15とし、再び主導権をにぎった。だが粘る立大は27分リターン・パスプレーから15―15のタイとし、28分には中根の機敏な動きから逆襲。芝工大の帰陣がわずかに遅れたスキをついて中根自ら見事なシュートを決めて逆転、勝利へ導いた。

芝工大は5本の7メートルスローを成功させ、終始試合のペースをにぎりながら負けた。

日体大 27（13―9 14―7）16 広島商大

日体大の試合運びはさすがにうまい。広島FWを巧妙なディフェンスで封じる一方、スピード豊かなフォーメーションプレーで着々加点した。上げ潮の広島商大も日体大の多彩な攻撃力にはカブトをぬいだ形。

▽3位決定戦

芝浦工大 30（18―7 12―2）9 広島商大

▽決勝戦

立大 16（10―7 6―6）13 日体大

各紙の決勝戦・評

〇…久しく"優勝の美酒"に遠ざかっていた立大が、今春12年23シーズンぶりに関東学連で優勝、あざやかなカムバックぶりをみせた。この大会でも強豪を連破して宿願の初優勝を飾り、五年間芝浦工大の手から離れなかった"優勝"を勝ち取った。

立大は日体大ゴール前での反則を少なくして日体大の速攻を封じる作戦に出た。これが見事成功。これは安達、中根がユニバシアードで学んできたものだ。そして攻めては中根が走り回って、日体大の2―4デーフェンスをくずしてチャンスを作った。

この中根の動きで江名、安達の強肩が生きた。接戦を続けながら終盤、強引な攻撃でリードを奪い、勝利に結びつけた。

日体大は立大の厚いディフェンスを破れず、後半10分から23分まで無得点。これでは勝てない（共同通信社・鶯尾記者）

〇…前半は優勝を意識して動きの鈍い試合だったが、後半はGKのボール出しもよく、速攻の応酬となった。

立大は中根がゴール前で走りまくってチャンスメーカーの役目を果たし、江名に打たせた。これが

【立大】	反	得	S
江名	12	6	5
安達	8	5	8
斎藤	3	1	7
田村	3	2	1
松本	2	1	2
中根	2	1	9
高久保	0	0	0
庵原	0	0	0
GK 尾形	0	0	0
	30	16	32

得	反	S	【日体】
7	0	2	石原
4	0	2	三友
0	1	2	林
6	4	9	藤原
2	4	6	北山
1	3	4	沢田
1	1	1	山口
0	0	0	結城
0	0	0	渡辺（GK）
0	0	0	島崎（GK）
21	13	26	

211326　4 7 メートルスロー 2　301632

主審　佐　野（教大出）

よく効いた。12分田村、15分松本がゲットして11－9と引き離したが、いずれも中根の動きをじゅうぶん生かしたものだ。こうなると完全に15分以後は立大のペース。日体大は前後半とも中根に引っかき回され、また沢田、北山のポイントゲッターが完全にマークされたのが大きく響いていた（朝日・中山記者）

○…個人技にまさる立大は、後半速攻を生かしてチャンスをものにした。

日体大のゴール前でのパスワークは鋭く、立大を上回りながら細かく動く立大の作戦に調子をくずした。日体大は後半23分、立大のエース安達の2分間退場から絶好の反撃機をもった。しかし江名の好プレーにあって点差を開かれたのはまずく、せっかくのチャンスをフイにした。（デイリースポーツ・小川記者）

○…速攻を身上とした両チームだけにテンポの早い試合だった。前半立大はジャンプシュート、倒れ込みシュートなど多彩な攻撃で得点をあげた。日体大もうまいパスと、立大GK尾形の堅くなったところをついて同点。そのまま後半となり、後半も14分まではタイスコア。14分すぎ立大は遅攻に替えた。「日体大のスピードをとめる作戦」（立大・三原監督）これが図に当たった。これでペースの狂った日体大ゾーンを攻めたて、ようやく立大のペースとなり、あせりの出た日体大を振りきった（報知・古藤記者）

○…立大のチームワークの勝ちだった。日体大は身上の速攻をあまり発揮できず、立大のじっくり攻める作戦に完全にのまれていた。立大は長身を生かして豪快なジャンプ・シュートを決めるエースの安達。小柄だが機敏に動く中根が好パスを送るなどこの二人がよくチームを引っぱった。前半は1点差を争って互角の試合運びだった。後半にはいるとスロースターターの立大が地力を発揮。試合時間10分を残して初めて2点差を開いた。なおもゴール前の混戦から斎藤が振り向きざまにシュートを決めるなど立大ペースとなった。日体大は終了5分前、安達の反則（2分間退場）から7メートルスローを決めて追い込んだが、立大はそのあとボールをゆっくり回して日体大の反撃を許さなかった。江名、安達がダメ押しのシュートを決めてゆうゆうと押しきった（日刊スポーツ・大村記者）

【注】決勝戦々評は各紙の記事を掲載したものです。順不同。（編集部）

東軍が連勝

第13回全日本学生選抜東西対抗戦は、9月22日午後3時から名古屋市八事の中京大球技場で行なわれた。試合は全日本、全日本学生優勝の立大を主力とした東軍が多彩な攻撃で西軍を圧倒、昨年に続き快勝した。対戦成績は東軍の7勝6敗となった。（主審・宇津野年一＝日体大出）

東軍 27（13－7、14－6）13 西軍

【東軍】		【西軍】
安達（立教）		鳥井（同大）
中根（立教）		浅野（京大）
江名（立教）		斎藤（同大）
北山（日体）		森末（関学）
藤原（日体）		市原（広商大）
住広（芝工大）		宮野（同大）
尾崎（法政）		十倉（関学）
佐久間（明治）		伊藤（甲南）
島崎（日体）	GK	奥本（同大）
三浦（中大）	GK	細川（関大）
52	ST	42
2	7メートルスロー	4
28	反則	47

【交代】東軍＝FP西村（法政）、杉本（中京大）、鎌滝（東北学院大）、新（芝工大）、平塚（早大）　西軍＝西本（広島商大）、北田（立命館大）、平岩（関大）、立石（関大）、東（広島商大）

国体成績一覧表

大崎電気（一般男子）3連勝
高校は男子とも徳山（山口）

第18回国民体育大会は10月28日から11月1日まで山口県徳山市（高校）、下松市（一般、教員）で開かれた。高校男女とも地元徳山高が初優勝、一般男子は大崎電気（埼玉）が3連勝、一般女子は大洋デパート（熊本）が2連勝した。今大会から初参加の教員男子の部は大阪教員団（大阪）が初優勝した。また天皇杯得点では地元山口県が第1位、皇后杯得点でも山口県が第1位となった。

なお一般男女の大崎電気は昨年まで東京から出場していたが、今年から埼玉県代表となった。（くわしい成績は次号に掲載します）

▽一般男子準決勝
大崎電気（埼玉）21（10－7、11－8）15 桜丘会（愛知）
住友化学菊本（愛媛）22（8－6、14－10）16 下関ク（山口）
▽同三位決定
下関ク 23（9－7、14－9）16 桜丘会
▽同決勝
大崎電気　住友化学

▽一般女子準決勝
レナウン工業（東京）13（6－3、7－3）6 愛知紡（愛知）
大洋デパート（熊本）10（6－3、4－3）6 大崎電気（埼玉）
▽同三位決定
大崎電気 15（7－3、8－5）8 愛知紡
▽同決勝
大洋デパート 12（4－2、8－4）6 レナウン工業

▽教員男子準決勝
大阪教員団 27（14－8、13－9）17 新潟県教員
熊本教員ク 25（12－7、13－8）15 全愛知教員ク
▽同三位決定
全愛知教員ク 19（9－6、10－11）17 新潟県教員
▽同決勝
大阪教員団 15（8－7、7－4）11 熊本教員ク

▽高校男子準決勝
中京商（愛知）23（14－5、9－5）10 修道（広島）
徳山（山口）21（12－5、9－12）17 寝屋川（大阪）
▽同三位決定
寝屋川 22（12－7、10－7）14 修道
▽同決勝
徳山 17（8－4、5－9、…2－0、2－3）16 中京商

▽高校女子準決勝
静岡城北（静岡）10（2－5、8－3）8 山陽女（広島）
徳山（山口）13（4－2、9－2）4 豊中（大阪）
▽同三位決定
山陽女 8（2－3、6－0）3 豊中
▽同決勝
徳山 6（3－3、3－2）5 静岡城北

大阪、熊本を破り連勝

全日本教職員選手権大会

第6回全日本教職員選手権大会は8月12日から三日間、京都市立体育館に21チーム（うち棄権2）が参加して開かれた。決勝は大阪教育団と熊本教職員クの間で争われ、総合力にまさる大阪が昨年に続いて優勝を飾った。この大会での連勝は大阪が初めて。

▽一回戦

山口教育団 24（13―7、11―5）12 福島教員ク

新潟教員ク 不戦勝 福岡教員ク

香川教員 13（8―8、5―3）11 静岡県教員団

岡山教員ク 23（7―3、16―6）9 興東ク（奈良）

高知教員ク 17（10―5、7―10）15 岐阜教員ク

▽二回戦

大阪教員団 24（9―6、15―5）11 山口教員団

新潟教員ク 22（9―7、13―8）15 愛知学芸大OBク

神奈川教員団 不戦勝 和歌山教員ク

兵庫教員 30（12―8、18―9）17 香川教員

岡山教員ク 29（12―10、17―5）15 栃木教員ク

京都教員ク 32（14―7、18―7）14 三重教員ク

熊本教職員ク 25（10―6、15―7）13 全富山教員

全茨城教員 14（6―3、8―8）11 高知教員ク

▽準々決勝

大阪教員団 27（14―8、13―9）17 新潟教員ク

兵庫教員 28（15―7、13―10）17 神奈川教員団

岡山教員ク 18（10―5、8―10）15 京都教員ク

熊本教職員ク 30（12―5、18―8）13 全茨城教員

▽準決勝

大阪教員団 31（14―9、17―11）20 兵庫教員

熊本教職員ク 31（18―5、13―15）20 岡山教員ク

▽三位決定戦

兵庫教員 34（17―9、17―12）21 岡山教員ク

▽決勝戦

大阪教員団 33（14―5、19―11）16 熊本教職員ク

年次優勝チーム

▽第一回（昭33）茨城教員ク ▽第二回 東京教員団 ▽第三回 神戸ストーク ▽第四回 中止 ▽第五回 大阪教員ク ▽第六回 大阪教員団

芝浦工大が優勝

▽関東学生秋季リーグ（10月6日―11月3日、明大八幡山）

①芝浦工大 7勝 ②立大 6勝1敗 ③日体大 4勝3敗 ③教大 4勝3敗 ⑤明大 2勝5敗 ⑤早大 2勝5敗 ⑤法大 2勝5敗 ⑧中大 1勝6敗

（芝浦工大は十二度目の優勝）

なお注目の芝浦工大―立大戦は18―12で芝浦工大の勝ち。

（リーグ戦の記録は次号にくわしく掲載します）

桃山大、復帰せず

秋の関西学生リーグ

関西学生秋季リーグ戦は10月20日から阪大グラウンドで幕を開けたが、春季リーグ戦で除名処分をうけた桃山学院大はついに復帰できなかった。一部は関東、同大、甲南大、京大、立命大、神大のほか、春季リーグで出場停止処分を受けた関学が復帰、それに春季リーグ二部優勝の阪大が昇格した。



大崎電気のコート完成

▽…大崎電気の渡辺社長はハンドボール普及のため、埼玉工場（埼玉県入間郡三芳村）の隣りに総工費約二千五百万円でハンドボールコートをつくった。三面のうち二面がハンドボール専用コート、一面はテニス、バレーボール用。このコートは全面アンツーカー・コートで、コートとコートの間は芝生となっている。しかも散水設備も完備し、夜間でも練習できるように照明設備もある。スタンドもできあがり、ハンドボールのコートとしては日本一。大崎電気の男女両チームは毎日三時間あまり練習しているという力の入れ方である。また大崎電気の男女チームはいずれも埼玉県協会に登録し、国体には埼玉県代表として出場した。コートの所在地は池袋駅から東上線に乗り、志木駅で下車。そこからバスで行く。川越街道の有名な松並木のところである。

千代田印刷チームが誕生

▽…千代田印刷機製造株式会社（社長 古賀和佐雄氏）は39年4月に一般男子チームを結成する。すでに10月に実技試験を行なった。

来年の全国高校は上田市

来年の第15回全国高校選手権大会は長野県上田市で開かれることが正式決まった。このほか第16回全日本総合選手権大会は岐阜県高山市、第19回国体ハンドボール競技は五月に新潟県柏崎市で行なわれる。

第14回全国高校選手権

桜台〔男子〕静岡城北〔女子〕が連続優勝

第14回全国高校選手権大会は8月4日から6日間、山梨県富士吉田市に全国の代表男子43校、女子37校が参加して開かれた。男子は初めて7人制が採用され、各校とも研究のあとが見え熱戦が展開された。また女子も各校の実力が接近して好試合が続いた。男子は桜台高（愛知・通算8回目）、女子は静岡城北高（通算3回目）がそれぞれ前年に続き連続優勝した。

男子　初の7人制に熱戦展開

男子

▽一回戦（12試合）

兵庫工（兵庫）19（7－7、12－7）14 氷見（富山）
清水商（静岡）19（8－5、11－2）7 福井商（福井）
盛岡一（岩手）18（2－0、1－2：9－9、6－6）17 熊本市商（熊本）
修道（広島）25（18－2、7－4）6 大石田（山形）
函館東（北海道）28（18－9、10－6）15 鶴崎工（大分）
桐生工（群馬）24（14－8、10－6）14 彦根工（滋賀）
寝屋川（大阪）16（7－6、9－4）10 水戸工（茨城）
和歌山商（和歌山）15（3－1、0－0：4－6、8－6）13 関東学院（神奈川）
博多工（福岡）26（12－6、14－10）16 金沢商（石川）
新居浜工（香川）16（7－6、9－4）10 水戸工（茨城）
加納（岐阜）29（15－6、14－1）7 大曲農（秋田）
伏見工（京都）24（8－13、16－10）23 一宮（愛知）

▽二回戦（16試合）

桜台（愛知推薦）19（9－9、10－2）11 兵庫工
塩山商（山梨）26（16－5、10－2）7 土佐（高知）
清水商 23（12－1、11－2）3 青森（青森）
福島（福島）21（2－0、2－2：8－9、9－8）19 天城（岡山）
修道（広島）18（7－6、11－6）12 四日市工（三重）
桐生工 16（9－4、7－8）12 仙台一（宮城）
中京商（愛知）22（9－4、13－3）7 和歌山商
東住吉（大阪）25（15－8、10－11）19 足利工（栃木）
上田（長野）27（14－6、13－5）11 添上（奈良）
盛岡一 20（12－5、8－4）9 柏崎（新潟）
高松一（香川）16（0－1、3－1：8－6、5－7）15 函館東（北海道）
徳山（山口）32（17－7、15－4）11 博多工
加納（岐阜）22（13－5、9－7）12 山梨園芸（山梨）
寝屋川 19（10－9、9－3）12 新居浜工（愛媛）
浦和市立（埼玉）18（9－4、9－7）11 鹿児島工（鹿児島）
伏見工 23（4－2、2－0：12－7、5－10）19 明星（東京）

▽三回戦（8試合）

桜台 21（11－8、10－6）14 塩山商
中京商 18（9－4、9－3）7 東住吉
修道 16（7－3、9－5）8 清水商
盛岡一 15（10－7、5－4）11 上田
桐生工 18（11－2、7－4）6 高松一
徳山 22（14－8、8－4）12 加納
寝屋川 22（12－7、10－3）10 福島
伏見工 22（15－6、7－6）12 浦和市立

▽準々決勝

桜台 15（6－3、9－1）4 修道
寝屋川 33（16－8、17－4）12 桐生工
中京商 19（6－7、13－3）10 盛岡一
徳山 28（14－10、14－5）15 伏見工

▽準決勝

桜台 19（8－8、11－10）18 寝屋川
中京商 24（17－12、7－6）18 徳山

▽決勝

桜台 14（8－5、6－8）13 中京商

反	得	S	（桜台）	（中商）	S	得	反
0	0	0	各務	黒川	4	1	7
3	3	5	小林克	片山	1	1	5
0	0	0	松浦	安藤	8	4	10
3	0	2	小林直	小島	1	1	8
2	3	3	山田	西尾	4	3	3
5	5	13	神谷	大下	8	3	1
8	0	4	加古	柳沢	0	0	0
2	3	9	竹内	花井	0	0	0
3	0	1	白神	蟹江	0	0	0
0	0	0	GK 山村	GK 平松	0	0	0
0	0	0	GK 近藤	GK 坂野	0	0	0
26	14	37	2（7メートルスロー）	2（7メートルスロー）	26	13	34

○…日本一の座をかけて顔を合わせること史上四度目。宿縁のカードである。

試合は立ち上がり中京商の一方的ペースで進み、接戦を予想したコートサイドの期待は全くはずれた。中京商の攻撃はすぐれた脚力を生かし、ショートパスをうまく展開した。桜台は動きがぎこちなく、ミス・パスが目立っていちじ

は4点差と離されたが、ふん囲気になれるにしたがい追い上げて前半を終わった。後半になると立ち場が全く逆になり、桜台が中京商のパスプレーをカットしては逆襲。同点から一気に逆転し、後半9分には桜台が12—10と優位に立った。しかしこのあと、桜台は後半開始直後の猛スパートにスタミナを使いすぎたか動きが鈍くなり、中京商の反撃を許して薄氷を踏む思いの試合ぶりだった。リードをするとかえって堅くなる高校チームの〃心理〃は全く微妙である。

○…7人制初の大会で高校界において7人制は未成熟の感が強かった。さすが名門桜台は基礎体力、基礎技術にすぐれていた。その両面において桜台高優るとも劣らなかった中京商の敗退は、不運というよりほかはないであろう。

桜台高・稲石監督の話　7人制の経験がとぼしいうえ、推薦出場したので大会前に試合不足だった。自信があまりなかっただけにこの優勝は非常にうれしい。これで私も選手も7人制に対して一応の自信ができた。連勝はもちろんねらいたいが、各校の実力伯仲で11人制当時のようなわけにはいかないだろう。

女子

△一回戦（5試合）

豊中（大阪）18（7—0、11—0）0 川崎市立（神奈川）
山陽女（広島）15（7—3、8—4）7 日川（山梨）
八幡商（滋賀）8（5—5、3—2）7 高崎市立（群馬）
栃木女（栃木）10（4—0、6—2）2 大垣南（岐阜）
県尼崎（兵庫）13（5—4、4—5、1—0、3—0）9 山梨（山梨）

▽二回戦（16試合）

静岡城北（推薦静岡）16（9—1、7—3）4 豊中
井原（岡山）26（9—3、17—0）3 羽咋（石川）
新居浜東（愛媛）14（7—3、7—7）10 有磯（富山）
盛岡二（岩手）16（9—4、7—3）7 郡山（奈良）
山陽女 21（11—2、10—0）2 小諸商（長野）
京都女（京都）14（8—5、6—3）8 室蘭清水丘
涌谷（宮城）12（5—1、7—4）5 高志（福井）
栃木女 15（6—1、9—1）2 和洋女（秋田）
高知西（高知）5（2—1、3—2）3 小高農工（福島）
徳山（山口）25（12—4、13—2）6 沼津女商（静岡）
桜水商（東京）14（5—6、9—4）10 東豊（大分）
水海道二（茨城）6（4—2、2—3）5 明善（福岡）
熊谷商工（埼玉）18（9—1、9—3）4 那賀（和歌山）
柏崎常盤（新潟）12（6—2、6—5）7 津女子（三重）
半田（愛知）22（10—2、12—1）3 八幡商
熊本市立（熊本）15（6—2、9—3）5 県尼崎

▽三回戦（8試合）

静岡城北 13（6—2、7—1）3 井原
栃木女 20（10—0、10—2）2 高知西
新居浜東 15（12—1、3—2）3 盛岡二
徳山 8（4—3、4—3）6 桜水商
山陽女 11（9—1、2—4）5 京都女
水海道二 13（7—5、6—7）12 熊谷商工
半田 13（8—2、5—4）6 涌谷
熊本市立 16（5—3、11—3）6 柏崎常盤

▽準々決勝

静岡城北 18（7—2、11—3）5 新居浜東
半田 13（6—5、7—2）7 山陽女
栃木女 14（10—2、4—4）6 徳山
水海道二 10（3—4、7—4）8 熊本市立

▽準決勝

静岡城北 11（5—3、6—4）7 半田
栃木女 19（8—3、11—2）5 水海道二

▽決勝

静岡城北 9（7—2、2—2）4 栃木女

得	反	S	【栃木】		【静岡】	S	得	反
4	1	3	加藤		亀山	4	1	5
3	1	1	田辺		山本	0	0	2
5	0	1	角田		横山	1	0	6
5	0	2	関口		山口	8	7	4
8	2	11	寺内		早川	0	0	7
0	0	0	猿山		落合	2	1	5
0	0	1	福富		杉山	0	0	0
1	0	0	山崎		小林	0	0	0
0	0	0	町田		山田	0	0	0
0	0	0	板倉	GK	奥山	0	0	0
26	4	19	3	7メートルスロー	4	15	9	29

○…先取点は4分7メートルスローを成功させた栃木があげた。しかしこの1点で逆に静岡は緊張したふん囲気から解放され、5分、6分と山口があざやかな突進力をみせて連続ゲット。あっさり逆転した。

静岡はその後も栃木の攻撃が単調になったのとは対照的にたくみなサイド攻撃で栃木のデフェンスをゆさぶり、すばらしいコンビネーションプレーを展開、完全に試合の主導権を握った。

点差を開かれると栃木の攻守は動揺がかくせなくなり、途中から降り出した雨で得意のラッシュ攻法が利かなくなってしまった。

○…後半、静岡は4分亀山がミドル・シュートを決め8—2とした。

この1点は、栃木にとって精神的に大きく響き、ここで「勝負あった」感じである。静岡は前日の試合で松田（CF）が負傷、この試合にほとんど出られなかった。これが他の選手を奮起させた。特に一人で7点をあげた山口の攻撃力と亀山の落ち着いたリードぶりが光った。栃木は前日までの5試合で78点をたたき出した攻撃力を発揮できずに終わってしまった。これは静岡の守りのうまさを賞すべきであろう。

静岡城北高・望月監督の話　追われる立ち場なので苦しかったが、自信はあった。

あぶなかったのは半田戦（準決勝）と決勝でした。特に決勝はエースの松田が半田戦で故障したため使えず心配していた。しかし他の選手が奮起してりっぱな試合をしてくれた。チームワークが最大の勝因です。

韓国高校チーム来日

韓国高校（男子）チームは11月28日午後羽田着のノースウエスト機で来日、東京、名古屋などで六試合を行なった。成績は5勝1敗

①明　星19―11韓国（東京）
②韓　国38―18茨城選抜（水戸）
③韓　国24―19名古屋選抜（名古屋）
④韓　国22―19兵庫選抜（神戸）
⑤韓　国23―17大阪選抜（大阪）
⑥韓　国38―22福岡選抜（北九州）

なお韓国チームは12月7日小倉港発の「なにわ丸」で帰国した。

「役員」

団　長　柳　錫興（韓国協会理事　昌徳女高教師）
監　督　朴　淳哲（成均館大教授）
総　務　崔　鐘錫（大倫高教師）
コーチ　劉　洙剛（韓国協会技術専門委員）
審　判　鄭　鎮圭（同）
選　手　崔　大鎬（円光高）
李　炫鐘（大倫高）
尹　常林（東星高）
柳　在男（麻浦高）
朴　鐘甲（光州工高）
全　福秀（大倫高）
金　相哲（大倫高）
文　鐘華（光州工高）
洪　成萬（五山高）
金　広錫（東亜高）
趙　永寿（五山高）
金　性淑（麻浦高）
崔　伯均（東星高）
金　丘（円光高）
朴　成斌（普成高）

総　評

全国高等学校体育連盟は、ことしから全国大会を一カ所に集めて開催する計画を持っていた。しかしそれは諸般の事情で実現はできなかった。ハンドボールは財政面での補助金や、文部省、日本放送協会、朝日新聞社らの援助を得て、今大会の運営がとりわけ円滑に行ったことはなによりのことであった。

○…本年度から男子も女子競技と同様7人制となった。男子43チーム、女子37チームの計80チームになり、期間も六日間となった。

富士吉田市は初日と最終日以外は天候に恵まれた。グラウンドコンディションは良好で、富士山を仰いでの高原のそう快なふん囲気は格別なものがあった。それだけに若々しい力を遺憾なく発揮し、高校生らしい熱戦が展開された。

技術面にみるとまだまだ地域的な差は否めない。基礎練習の不じゅうぶんなチームが見られた。一応7人制についてはマスターされ、好試合も見られた。だが全般的にはスピードとフットワークのコンビネーションに欠け、デフェンスの荒さが目立った。また反則もかなり多く見られた。しかもそれがあるチームだけに固定していたことは、指導上一考を要するもので残念に思われた。反則の多いチームが勝つということは、本来のあり方から逸脱するもので大いに反省すべきだ。

目立つ反則と荒さ

試合が進むにつれ技倆も伯仲し、個々のチームの特性も生かされてきた。

緊張と若さのせいか凡プレーが多く、それが勝敗に直結していた。

個人プレーに頼るより、やはり全体のまとまりを持ったチームが勝ち進んだことは当然。ハンドボールはチームプレーであり、チームとしての精密さ、機敏さ、的確さなどの鍛練がいかに要求されるかという点をはっきり示したものである。

○…女子は上位チームを除いては、基礎的技術に欠けた点が目立った。スタミナの配分を考えないためバランスを失い、ゲーム自体に動きのないまま相手に得点を許すなど粗雑な面が見られた。小数のプレーヤーに頼りすぎたために攻撃が変形となり、かれらの調子によってゲームが左右された試合の多かった。プレーヤー全員がオールラウンドで、きびきびしたプレーをすべきだということを痛感した。一層の研究と努力を望みたい。それに一度、二度の失敗でプレーに対する自信を失った選手が多かったが、さらに心技両面の耐久力を養う必要があろう。

決勝戦では、折りからの降雨でグラウンドコンデションに恵まれなかったが、実力のある栃木女子が敗退したのは惜しまれる。特に持ち前の速攻が見られないままバランスをくずしてしまった。静岡城北にすっかりお株を奪われた格好であった。（高体連ハンドボール部）

がんばれ!!　山中君（伏見工高）

京都・伏見工高GKの山中毅君はりっぱなプレーヤーである。六歳のとき、左足が小児マヒとなった。しかし少しも屈せず藤ノ森中学の二年からハンドボールを始めた。身体障害者はややもすると暗い性格になりがちだが、山中君は友情に励まされてチームの柱となった。高校入学後も責任感の強い選手となり、バックスからGKに転向してインターハイにも出場した。いまでは部員から信頼され、先輩からかわいがられている。

芝浦工大優勝

第16回全日本学生王座決定戦は11月23日新宿体育館で芝浦工大―同志社大の間で行なわれ、芝浦工大が25―17で勝った。芝浦工大は36年いろい3連勝、通算6度目の優勝である。（くわしい記録は次号に掲載します）

技術研究室

防御の研究について（第七回）

遠藤健次
（日本協会強化委員）

防御について書けといわれた。国外、国内の優秀選手を見たり、研究していると思われる数人の諸兄にたずねた。攻撃練習に重点をおき、防御はその合い間に少々形ばかり行なうていどとの返事しかもらえなかった。

基本練習についてまずいえることは、走力、敏捷性、タイミングなどを高めるような練習を行なうべきだ。それらについては過去において11人制ハンドボール防御法でじゅうぶん研究されたと思われるので、個々の内容について気づいた点をあげてみる。

一、姿勢についてはいついかなる方向にでも移動できるように、自然に体重を両足に均等にかけて置くことが大切である。

二、スタートダッシュについては長い距離を行なわず、短い距離を繰り返し時間をかけた方がよい。リターン、フットワークなども同時に行なう。前後左右に短く（2～3メートル）、つねに相手の正面に移動できるように反復する。しかもこれらの練習において、は笛など用いる必要なく視覚にたよるべきであろう。相手はつねに動いているわけで、その動きに応じて移動の必要性が生じるわけである。

三、短距離の練習を多くとり入れる。従来腰を落として低く構えるようであったが、これからは陸上競技の走法でよいと思う。

大阪の馬場氏も前号でのべられていたが、防御は最大の攻撃の糸口。すなわち速攻への足がかりとして、また相手速攻の防御のためにもカット方法、円形または対列で行なう。円形においては2～3人のコンビを合わせて行ない、ボールの身近かにいる者がボールの進路を指定するような角度をもって当たり、他の者を動きやすいようにする。ドリブル、カットのチャンスは縦の動きのときボールが手から離れた瞬間にスタートし、軽く押えるかまたは軽くはじくより、対列の場合は主にスタートのタイミングの練習になるのではないか。カットできない場合は、バックステップでもとの位置に帰えることが忘れがちたので注意したい。

四、フェイントに対する練習としては、早く正面に位置し相手の歩数を読む。そして適当な間隔をおきむりたカットは狙わず、むしろシュート方向を限定させるよな位置に移動する。しかもつねにボールを中心に左右三人の相手を広げた手中に入れ、その頂点に位置できるようにする。

五、通常アタックと呼ばれる動作は、相手側が走り出したあとでは効果がない。相手側がスタートを起こす前に相手方の正面に位置し、長い距離を走らせ方向転換をやらせ、またスピードを出させないようにする。

防御とは……得点を許さないこと

六、ポジションチェンジをスムーズにできるようにする。たとえば四人一組となり、一人は攻撃側とし順々に各ポジションを変え、徐々に人数を増すというような練習方法もある。

七、次に防御で必要なことは、全員声を出しながら連絡がとれるようにする。防御の目的は得点を許さないことである。キーパーの守備範囲をせまくすることができれば可能性がある。したがってシュートコースを限定させること。そのさいはキーパーの弱点をカバーすることができればよい。

「流し」と呼ばれているシュートは、小細工の可能性が大きいので、近めにシュートしてしまうよう仕向ける練習もしたい。さて防御方法はゾーンディフェンスとマンツーマンディフェンスとに大きく分けられる。速攻に適するもの、遅攻に適するものがあり、1～5、2～4または一線と呼ばれるものが含まれている。それぞれの方法において長所、短所があるわけだが、両方法の長所、特殊性を研究し、あわせて相手方の特徴を早く見出す。同時に進路に立ち方向転換させてフオロー、速攻に連続をもたせる。パス、カットを積極的にねらい、一人の失策はキーパーを含む全員でカバーできるようにしたい。

速攻に対する練習方法としてはコート全面を使いキーパーを入れる。初め三人づつ攻防の二組を編成し、キーパーからのボール出しがスピーディーに行なえるようにする。また同時防御陣は同じくスピーディーに帰陣し、守備につけるようにしたい。

ロングシュートを多く用いるチームに対戦する場合には、2～4ディフェンスを用いて、前の二人の者にシュートを注意させ、カットインプレーをさせないようにパスの方向を限定づけてうしろの四人の動きやすいようにする。

ロングシュートの少ないチームに対しては、1～5ディフェンスで前の一人がつねにボールアタックする。この場合シュート可能範囲より外の方にパス、または移動させるような位置に早く立つことが必要である。

サイドの防御については相手側がシュート範囲外の方から内に向かって行動をしている場合、相手の利き腕が動かせないような位置に立つだけで目的を達する。ポストプレーに対しても同様に利き腕を注意させ、前方でアタックしている者の動きにより、ボールカットを積極的に狙わせる。ポストが複数以上の場合には主として中央部を防御し、前方の者が相手にサイドにパスせざるを得ないようにすべきである。

小柄な防御者が大柄な攻撃者に対する場合は、相手のシュートを浮かせることを考え、相手の眼に対して正面にさっと手を広げさせるのも方法である。

ゴール前のフリースローの防御についてはボールとゴールの両端を結んだ線上に早く立たせる。この場合キーパーとの関連を忘れてはならない。

最後にチームの構成メンバーや環境、その他の事情のなかで、独自の方法を生み出して行くことができればより以上に効果があがる。（浦和市立高監督）

日韓親善 後半四戦

韓国、粘りとスタミナ発揮

六月上旬、日本を訪れた韓国学生選抜チームは先号既報後に京都、広島、山口で合計四試合を行なった。本誌ではこの四試合の模様を馬場太郎氏（日本ハンドボール協会副会長）の観戦記によってお伝えしよう。

韓国学生チームの来日第5戦は6月16日午後3時から京都市立体育館に約一千五百の観衆を集め、京都学生選抜軍（同大、京大、立命大混成）との間で行なわれた。主審玉城修。

京都学生 19（8―7、11―9）16 韓国学生

【京都学生】	S	得	反
東尾（同大）	1	1	4
西川（同大）	2	0	0
石井（同大）	14	5	8
鳥井（同大）	16	5	14
浅野（京大）	15	2	7
宮野（同大）	8	6	4
中村（立命）	0	0	1
生本（京大）	0	0	1
雨森（京大）	0	0	1
北田（立命）	5	0	2
GK 奥本（同大）	0	0	3
GK 川原（京大）	0	0	0
計（7メートルスロー 3）	61	19	45

【韓国】	S	得	反
姜仁変	14	3	6
徐康錫	18	2	3
任源王	3	1	2
金秀竜	3	0	3
金弘政	2	1	1
李正魯	1	1	0
金一慶	3	2	6
尹一成	4	1	6
柳在碩	2	1	2
金京植	11	4	4
GK 張裕文	0	0	0
GK 白仁植	0	0	0
計（7メートルスロー 8）	61	16	33

▽交代【京都】FP牧野（立命）反3、FP斎藤（同大）S3、反2 FP樽井（立命）反1

○…韓国はようやく日本チームの試合ぶりにもなれ、京都選抜をしのぐプレーを見せた。しかし京都選抜も石井、鳥井、宮野の同大トリオが活躍。この三人で16点をたたき出す活躍に、韓国はまたしても惜しいところで白星を逸した。韓国は、スピードはあったが攻撃が単調で、シュートの多彩さからも京都の勝利は順当であった。韓国では金(秀)の守備での動きと、姜、徐、金(京)の攻撃力が目についた。

多彩な攻撃で逆転

韓国学生チームの来日第6戦は6月17日夜6時30分から広島県立体育館に約二千五百の観衆を集め広島商大との間で行なわれた。主審上田喜代治（明大出）

韓国学生 19（9―5、10―12）17 広島商大

【広島】	S	得	反
柏原	1	1	2
市原	17	8	3
村瀬	1	1	0
西元	1	1	3
河野	0	0	2
東	7	3	3
上田	3	3	0
佐伯	0	0	1
GK 松尾	0	0	0
GK 森尾	0	0	0
計（7メートルスロー 0）	30	17	14

【韓国】	S	得	反
姜仁変	4	4	3
徐康錫	13	7	4
任源王	5	1	5
金弘政	1	0	0
諸葛王男	0	0	1
尹一成	4	3	0
李正魯	6	4	0
楊根水	0	0	0
柳在碩	0	0	0
金秀竜	0	0	0
GK 張裕文	0	0	1
GK 白仁植	0	0	0
計（7メートルスロー 0）	33	19	14

○…立ち上がりは完全に広島商大のペース。エース市原が1、3、6分に連続ゲットして優位に立った。しかし韓国はこのあと、徐、李を中心に反撃に移り、15分には4―4のタイとした。その後は一進一退。わずかに終了間ぎわに広商大が柏原、東の連続得点で2点の差をつけた。

○…後半、韓国は市原をマークする一方、巧妙なローリング・オフェンスをみせて広商大デフェンスを左右にゆさぶった。ボデー・チ

期待大きい日韓交流

さる6月に韓国学生選抜チームが来日した。外国の学生チームが来日するのはこれが初めてであり、大いに親善の実をあげた。思えば韓国と日本のハンドボール界の結びつきは古い。いや日韓両国のハンドボールの草創期に貢献した人たちは、同一の人たちだともいえそうである。

本誌に連載されている球史のうち、戦前の全日本選手権に出場した日体のメンバーに、多くの韓国姓の選手がいることにお気づきの方多いもだろう。

第1回全日本の準優勝チーム日体イレブンの大半は韓国からの留学生たちだった。その人たちが母国に帰って韓国にハンドボールの芽を植えたのである。

だれもみな日本のハンドボール界の草創期に活躍した〝忘れ得ぬ人たち〟である。同時に韓国ハンドボール界のパイオニアである。

25年後の今日、韓国チームを迎えることができたのはまことによろこばしい。西独、ルーマニアの来日と同じような意義を、この国際試合に見出すことができた。

来日チームの監督である洪淳泰氏は日体大のHBとして第2回全日本優勝のメンバーである。コーチの崔東淳氏は日体の二代目主将として、強シュートを武器に名CFとして鳴らした人だ。

ある人が一昨年訪韓した日体大が持ち帰った韓国ハンドボール協会の役員名簿を見て、日体出の韓会長らがズラリと並んでいるのを「まるでこりゃあ日本と同じだ」といって大笑いしたが、全くそのとおりである。

日本の高嶋、馬場、徳永氏などと同じ釜のメシを食った仲である。来日する学生選手たちも今度の来日を非常にたのしみにしていたと聞くが、役員諸氏にはいっそう感慨深い来日であったろう。

地理的な条件を考えると、日韓の交流はもっと早く行なわれてもよかった。この機会に日韓両国が中心となって、アジア・ハンドボール連盟の結成機運を盛りあげるのもよいのではなかろうか。

ェックを使ったスクリーンプレーをみせるなど、多彩な攻撃で連続5ゴール。18分には15－13と逆転に成功した。広商大は、韓国の激しい当たりにまどわされ、しかも市原の負傷から前半に比べて攻撃のスピードが落ち、韓国デフェンスをなかなか突き破れなかった。

○…広商大にとって惜しまれるのは25分18－17と1点差につめたあと、7メートルスローを得、タイとすべきチャンスに東がラインクロスして失敗。しかもその直後のボールを徐に見事にシュートされ19－17とされてしまったことだ。この1分間のプレーの明暗がこの試合を決めた。余裕を取り戻した韓国は、その後ローリングで広商大に反撃の機会を与えず、来日いらい初の1勝をあげた。

○…韓国の勝因は持ち前の粘りとスタミナにある。来日六戦にして日本のプレーの長所をいちはやく取り入れたのは賞すべきであろう。とくに姜、徐、李のトリオが、一段とその攻撃に多彩さを加えてきたのは注目される。広商大は全員が堅くなっていたうえ、後半市原が精彩を欠いたため、せっかくの前半のリードもむなしかった。

韓国、山口大会で2連勝

韓国学生チームの来日第7戦は6月18日午後3時から、下松市民体育館に約一千の観衆を集め、下松工業高クラブとの間で行なわれた。主審藤田信義（日体大出）

韓国学生 24（15－11／9－7）18 下松工ク

【下松】	S	得	反
五郎丸	4	1	2
中股	16	8	4
仁科	3	1	7
牧野	8	3	4
池田	8	2	4
徳重	5	1	3
箱崎	0	0	1
松村	4	2	1
竹内	0	0	0
芳岡	0	0	0
GK 合田	0	0	0
GK 木村	0	0	0
7メートルスロー5	48	18	26

【韓国】	S	得	反
姜仁変	5	2	2
徐康錫	3	3	3
任源王	7	6	5
金秀竜	4	4	2
金弘政	3	2	4
尹一成	4	3	2
金京植	5	3	3
李正魯	1	1	1
諸葛王男	0	0	0
金一慶	0	0	0
GK 張裕文	0	0	1
GK 白仁植	0	0	0
7メートルスロー6	32	24	23

▽交代【下松】FP武居、田中【韓国】PF楊根水、柳在碩

○…東西の学生のトップクラスと体力的にはそん色のなかった韓国と、高校現役主体の下松工クでは"力"の上ではっきり差があった。しかし地元の声援にこたえた下松工クは、ポストプレーを主武器に善戦した。下松工クは韓国デフェンスの当たりの強さに突進を阻まれ、思うように攻撃ができなかった。韓国バックスの出足のよいカット守備はこの日もさえていた。守勢から攻勢へのテンポに、いま一つ物たらぬものがある。これはやはり7人制未消化に原因したもので時間が解決しよう。

韓国学生チームの最終戦は6月19日午後1時から徳山市体育館に約二千の観衆を集め、徳山クラブとの間で行なわれた。主審李時黙（韓国ハンドボール協会理事）

韓国学生 29（16－7／13－12）19 徳山ク

【徳山クラブ】	S	得	反
近藤（徳山職安）	9	3	6
浜岡（防長交通）	12	3	6
白井（白井興業）	7	1	5
青木（東洋鋼板）	4	1	1
椎木（日新製鋼）	8	2	7
安沢（徳山市役所）	27	9	6
岩崎（N・P・T）	1	0	3
藤井（あかつき印刷）	0	0	0
GK 山本（東洋曹達）	0	0	0
7メートルスロー4	68	19	34

【韓国】	S	得	反
姜仁変	17	9	2
徐康錫	36	13	4
任源王	3	0	6
金秀竜	4	1	3
金弘政	2	1	5
金一慶	1	0	0
金京植	1	0	2
李正魯	5	2	2
尹一成	10	3	7
柳在碩	0	0	0
GK 白仁植	0	0	0
GK 張裕文	0	0	0
7メートルスロー3	79	29	31

▽交代【韓国】FP諸葛王男、楊根水

○…最終戦、しかも広商大戦のあと2連勝して気をよくしている韓国に、社会人を中心とした徳山クは完全に走り負けた。前半、徳山クは安沢、浜岡のコンビを中心に速攻でペースをにぎった。韓国も徐が当たりに当たって差をあまり開かなかった。徳山クとしては、前半大きくリードして後半優位に立ちたい作戦だったろうが、徐、姜のコンビに対するデフェンスがあまりにも不じゅうぶんすぎた。

○…後半韓国は徳山の動きが鈍り、凡ミスをくり返すところをよくついて着々加点。速攻、遅攻を交えた変化のある攻撃で最終戦を飾った。

第一戦～第四戦（既報）

●韓国学生 14－21 東海学生○
△韓国学生 25－25 日体大△
●韓国学生 9－19 関東学生○
●韓国学生 22－30 桃山学院○
▽8戦3勝4敗1引き分け、総得点156、総失点168

博多港から帰国

韓団長一行19人は6月21日の山口大会（徳山）を終えたあと福岡に向かい、21日午後4時、博多港から船で帰国した。

親善試合を終えて

6月来日した韓国学生選抜チームは6月20日博多港から帰国した。帰国にあたって役員、選手は今回の遠征の思い出を次のように本誌編集部に寄せた。


韓 炳 喆

団長 韓 炳 喆

日本ハンドボール協会の招待で、多年の懸案であった日本訪問が実現したことはこの上なくうれしく感じる。

日本は三回のヨーロッパ遠征と、西独チーム、ルーマニヤチームとの国際試合で多くの新技術を獲得した。その技術をわれわれの前で見せてもらう機会を得たことは大変よい勉強になった。速いパス、突っ込みの鋭さや、倒れ込みシュートなど目新しいことが多かった。日本ハンドボール協会の諸兄や各地の役員諸君の心からなる歓待ぶり、観衆のスポーツマン・シップに徹した態度などは頭の下がる思いがした。また各地にりっぱな体育館が建設されているのを見て、羨望の念を禁じ得なかった。われわれは今回の遠征で、8試合のうち2試合は勝ちたいと念願していたが、三つの勝星を得て帰国できることは望外のよろこびである。

今秋は男子高校を日本に送り、来年は日本から高校女子チームを韓国に招待したい希望を持っている。

日本のみなさん。いろいろお世話になりました。(韓国ハンドボール協会副会長、来日選手団団長日体大出)

アジア連盟の結成を


コーチ 崔 東淳

コーチ 崔 東 淳

韓国は今年の4月1日から7人制を採用したばかりなので、日本チームに比べて基礎技術の訓練の不足が目立った。われわれにとって惜しいのは、慶北大学の優秀選手三名の不参加であった。

彼らが今度のデレゲーションに加わっていれば、強力なチームを編成することができた。日本のみなさんにもさらによい試合をお見せすることができただろう。日本を離れるにあたって、私は一つの希望を申し述べたい。

それはアジア地区のハンドボール競技の発展のために、韓国、日本、イスラエルなどによって「アジア・ハンドボール連盟」の結成を急ぐべきだということである。(韓国ハンドボール協会理事、来日選手団コーチ、日体大出)

思い出多い遠征


主将 姜 仁奕

主将 姜 仁 奕

日本各地での試合中、とくに感じたことは観衆のスポーツに対する理解の深かったことです。私は非常に感銘深かった。

旅行中、食事になれなかったこと、言葉の通じなかったこと以外は全く楽しい連日であった。とりわけ各地での歓待ぶりは、私のスポーツ生活中(編集部注・姜選手は大学卒業後二年間の軍隊生活を送り再び大学に復学。球歴十一年)、最も忘れ得ない思い出となるだろう。(成均館大学主将、来日選手団主将)

印象的な対日体大戦

慶熙大学 徐 康 錫

あこがれの日本遠征が実現したうえ、こんな楽しい旅程で試合ができたことはこのうえなくうれしい。しかもいろいろと今後研究すべき材料を知り得たのは収穫だった。たとえば各種のシュートの方法、パスの角度、ステップの要領や1・5、2・4のデフェンスの要領など、私にとって数多くの「新技術」であった。8試合の中で、最も印象の深かったのは、日本体育大学との一戦であった。

個人のコンディションも、チームのコンディションも最良で快適の試合だった。

われわれは今回の遠征の経験を生かし、じゅうぶんの練習、研究をつむつもりである。

日韓国際試合成績(※印七人制)

▽第1回(昭和36.10.21〜10.29 日体大訪韓)

○日体大	22—7	慶熙大	36.10.21	京城
○日体大	22—6	成均館大	10.22	京城
○日体大	26—10	慶北大	10.24	大邱
○日体大	18—4	大邱学生選抜	10.25	大邱
○日体大	21—10	延世大	10.28	京城
○日体大	21—8	光州師範大	10.29	京城

(日本=日体大=6戦6勝)

▽第2回(昭37.8.31〜9.7)全日本高校選抜訪韓)

○全日本高校	22—9	東星高	37.10.31	京城
○全日本高校	※17—8	麻浦高	9.1	京城
○全日本高校	16—6	養正高	9.3	京城
○全日本高校	18—7	大倫高	9.4	京城
○全日本高校	14—7	晋成高	9.5	京城
△全日本高校	7—7	五山高	9.7	京城

(日本=全日本高校選抜=6戦5勝1引分)

連載第六回

ハンドボール球史

関東学生リーグ戦前編（上）

「記録を中心とした日本ハンドボール史」も、戦前編は「学生の部」を残すのみとなった。昭和12年(1937)関東選手権と第1回全日本選手権が行なわれた。昭和13年(1938)2月、日本送球協会が誕生。そして5月に関東学生送球連盟が設立され、第1回関東学生送球リーグ戦が行なわれた。記念すべき第一日のカードは文理大—日体、明大—早大であった。

学生による公式競技会はこれが最初である。学生同士の日本で最初の公式試合はこれに先立ち、昭和12年10月22日、東京の体研グランドの第1回関東選手権第1日に日体と慶大が顔を合わせている。

ともあれ昭和13年の第1回関東学生リーグに参加したのは、日体、文理大(現教大)慶大、早大、明大の五校であった。それ以後毎年春・秋二回のリーグ戦が行なわれることになった。

25年後の今日、関東学連に三部制全十八校を加盟しているのは、学生ハンドボール界の躍進をそのまま物語るものであろう。

関東学生リーグ総成績①

▽昭和13年春季

文理大	6—3	日体
明大	18—1	早大
日体	9—4	慶大
文理大	26—1	早大
日体	24—3	早大
明大	19—3	慶大
文理大	16—4	慶大
日体	13—8	明大
慶大	14—4	早大
文理大	6—5	明大

【順位】①文理大4戦4勝 ②日体3勝1敗 ③明大2勝2敗 ④慶大1勝3敗 ⑤早大4戦4敗

▽昭和13年秋季

日体	25—1	早大
明大	18—1	早大
明大	23—4	慶大
明大	20—1	文理大
明大	17—6	日体
日体	16—10	慶大
慶大	8—6	文理大
日体	13—1	文理大
文理大	7—3	早大
慶大	9—7	早大

【順位】①明大4戦4勝 ②日体3勝1敗 ③慶大2勝2敗 ④文理大1勝3敗 ⑤早大4戦4敗

▽昭和14年春季

慶大	17—8	明大
早大	不戦勝	文理大
日体	不戦勝	早大
慶大	不戦勝	文理大
日体	15—3	慶大
明大	不戦勝	文理大
明大	19—0	早大
日体	不戦勝	文理大
日体	6—5	明大
慶大	17—3	早大

【順位】①日体4戦4勝 ②慶大3勝1敗 ③明大2勝2敗 ④早大1勝3敗 ⑤文理大4不戦敗

▽昭和14年秋季＝法大新加盟、文理大、明大不参加

日体	12—6	慶大
早大	20—1	法大
慶大	19—0	法大
日体	15—3	早大
日体	32—0	法大
慶大	10—5	早大

【順位】①日体3戦3勝(＝2連勝・2回目) ②慶大2勝1敗 ③早大1勝2敗 ④法大3戦3敗

▽昭和15年春季＝文理大復帰

早大	14—3	法大
日体	29—0	文理大
慶大	25—0	文理大
日体	9—1	早大
日体	26—3	法大
慶大	8—4	早大
文理大	5—3	法大
日体	3—2	慶大
慶大	19—0	法大
早大	10—2	文理大

【順位】①日体4戦4勝(＝3連勝・3回目) ②慶大3勝1敗 ③早大2勝2敗 ④文理大1勝3敗 ⑤法大4戦4敗

▽昭和15年秋季

早大	11—2	文理大
日体	18—4	文理大
早大	8—7	慶大

この試合は6—6から延長戦となったが、これは関東学連における最初の延長試合である。

慶大	24—4	法大
慶大	10—4	文理大
日体	34—0	法大
日体	9—8	慶大
早大	24—2	法大
文理大	10—2	法大
日体	16—2	早大

【順位】①日体4戦4勝(＝4連勝・4回目) ②早大3勝1敗 ③慶大2勝2敗 ④文理大1勝3敗 ⑤法大4戦4敗

地方球界の歩み

北から……南から……②

愛知県(1)

愛知県のハンドボール界は、自他ともに許す日本のハンドボール界の中心勢力である。

愛知県のハンドボール界が獲得した全国タイトルの数を並べれば、この〝誇り〟はいっそうはっきりする。

全国高校選手権（男）	11
（女）	2
全日本総合選手権（女子）	8
国体一般男子	2
国体一般女子	4
国体高校男子	8
国体高校女子	3
全日本室内選手権（女）	3
全日本実業団選手権（女）	3

などである。

愛知県のハンドボールの創始は、昭和15年に東邦商業が第11回明治神宮体育大会に出場、中学男子の部で準優勝した記録がある。戦前からということになるのだが、この記録を除いては特に目立った活動はない。やはり軌道に乗った動きをみせ始めたのは昭和22年ごろから。そのきっかけは、宇津野年一氏が熱田中にクラブを設けたことだ。それ以後、県中体連の発足から宇津野氏、花畑平男氏などが普及、指導面に努力し、今日の隆盛の基礎を築いた。県協会の誕生は昭和22年の第2回国体(石川)に熱田中が出場したとき、急いで設立された。昭和26年桜台高の全国制覇で一躍国内のトップゾーンに躍り出た。このため高校男女チームが年ごとに増し、さらに一般チームの誕生へつながった。そしていまやそのチームは、一般男子16、一般女子2、大学男子4、高校男子36、高校女子20で全国屈指の大世帯に発展した。特に高校界の充実は全国第一位を誇るものである。

県協会の運営も円滑である。ことし小杉仁造愛知紡社長を五代目会長に、栗脇巍理事長以下11人の常任理事、31人の理事。特に地方支部の積極的な活動ぶりは注目すべきものがある。ことし2月の全日本実業団選手権は、豊橋市ハンドボール協会が一切の指揮をとるなど他府県に見られぬ強力な体制が整えられている。このほか名古屋支部、尾張支部、西三河支部などの活躍もめざましい。こうした組織力によって日独、日本ルーマニア、日韓などの国際試合。さらには第1回全日本総合、第四回全日本室内などのビッグエベントがきわめてスムーズに運営された。また地元報道関係との結びつきが深いのも特色であり、力となっている。くわしい県球史などその戦歴は次第に掲載する。（続）

茨城県（その2）完

昭和33年には山梨県で開かれた関東選手権で全茨城(男)は2位、全茨城(女)、水海道二高（女子高校）が優勝した。次いで富山国体に出場し、全茨城（女）は3位、全茨城（男）は8位、また水海道二高（女子高校）は熊本市立高を5—4で破って国体で初優勝した。この結果皇后杯得点で第1位を獲得した。また第1回県教職員選手権を開いて教員層への普及につとめた。第1回全日本教職員選手権には22—12で奈良代表を破って初優勝するなど、県ハンドボール界の力は年ごとに伸びて行った。34年には関東大会を土浦市で開き、第14回東京国体には全茨城(男女)、水海道二高の三チームが出場、天皇杯得点第8位の成績をあげた。35年夏の県高校大会の帰途、高体連委員長の菊地陽三氏(水戸工高教諭、一般男子全茨城チーム主将)が交通事故で死去された。水戸工高の選手たちは菊地先生の遺志をついで猛練習し、その年の熊本国体には堂々と出場した。また水海道二高は全日本総合選手権、全日本室内総合選手権に出場して、いずれも三位に入賞という好成績をおさめた。36年には故菊地陽三氏の功績をしのぶため「菊地杯大会(高校)」を創設し、教え子（水戸工高）が優勝したことは快挙であった。第7回関東高校選手権を笠間市で開き、64チームが参加し盛大だった。水海道二高は第12回全国高校2位、第16回秋田国体（湯沢市）でライバルの静岡城北高を4—3で破り、国体二度目の優勝を飾った。

37年には水海道二高出身の塚原（愛知紡）、古谷（大崎電機）田村（大崎電気）の三人が第2回世界女子選手権に出場、さらに韓国遠征の全日本高校（男）選抜チームに大槻（石岡一高）が選ばれた。第5回全日本教職員大会に全茨城教員チームは2位、岡山国体に全茨城（男）は2回戦に進み、水海道二高は3位となった。第12回県総合選手権大会には一般、高校、中学の男女チーム合計37、第8回県室内大会には23チームが参加した。38年5月現在の登録チームは高校男子11、高校女子11、中学男女13、実業団3、クラブの計45チームです。（了）

地方だより

愛知紡、貫録示す

▽第15回東海選手権（9月14日、15日、岐阜市）

▽一般男子リーグ戦

清商ク（静岡）24―10 本田技研（三重）

桜丘会（愛知）33―15 全岐阜（岐阜）

清商ク 13―10 全岐阜

本田技研 21―20 桜丘会

桜丘会 19―12 全岐阜

清商ク 18―10 本田技研

（順位）①清商ク②桜丘会③本田技研④全岐阜（清商クの2連勝）

▽一般女子リーグ

田村紡（三重）14―4 城北ク（静岡）

愛知紡（愛知）22―3 南嶺会（岐阜）

田村紡 22―3 南嶺会

愛知紡 20―1 城北ク

城北ク 7―2 南嶺会

愛知紡 7―6 田村紡

（順位）①愛知紡②田村紡③城北④南嶺会（愛知紡の6連勝）

▽教員トーナメント一回戦

全愛知教員 15―11 静岡教員

岐阜教員ク 21―15 三重教員団

▽同決勝

全愛知教員ク 17（9―6 8―4）10 岐阜教員ク

（全愛知初優勝）

▽第9回関東高校選手権（7月26、27、28日、富士吉田市）

▽男子準々決勝

桐生工 11―10 浦和市立

明星 18―10 多摩川

翠嵐 10―9 塩山

足利工 14―13 関東学院

▽同準決勝

明星 10―8 足利工

翠嵐 15―12 桐生工

▽同三位決定

足利工 15―12 桐生工

▽同決勝

明星（東京）18（9―5 9―7）12 翠嵐（神奈川）

明星は7年ぶり3度目の優勝

▽女子準々決勝

栃木女 21―1 日川

太田二 10―5 山梨

桜水商 6―5 笠間

水海道二 13―1 国学院栃木

▽同準決勝

栃木女 16―2 桜水商

水海道二 12―1 太田二

▽同三位決定

太田二 8―4 桜水商

▽同決勝

栃木女（栃木）8（5―1 3―4）5 水海道二（茨城）

（栃木女は2連勝4度目の優勝）

東海は中京商と城北

▽第10回東海高校総合体育大会ハンドボール競技（9月14、15日岐阜市）

▽男子準々決勝

桜台 18―9 清水商

津工 25―17 岐阜工

中京商 35―8 四日市西工

富士 10―9 加納

▽同準決勝

中京商 31―9 富士

桜台 37―9 津工

▽同三位決定

富士高 27―14 津工

▽同決勝

中京商（愛知）26（8―7 18―3）10 桜台（愛知）

▽女子準々決勝

城北 23―3 津女子

半田 11―6 大垣南

名女商 23―5 暁

加納 10―6 清水商

▽同準決勝

城北 9―8 半田

加納 11―8 名女商

▽同三位決定

名女商 7―5 半田

▽同決勝

城北（静岡）17（11―3 6―3）6 加納（岐阜）

桜台、中京商に敗れる

▽第18回国体愛知県予選高校男子の部決勝は8月29日名古屋の松蔭高で行なわれ、全国高校優勝の桜台は中京商に20―14で敗れた。

大阪市が初優勝

▽第14回五大都市（大阪・名古屋・横浜・神戸・京都）体育大会（7月12、13、14日京都市）

▽一回戦

名古屋市 22―16 横浜市

大阪市 20―14 神戸市

▽敗者復活戦

横浜市 19―16 神戸市

▽準決勝

大阪市 17―14 名古屋市

横浜市 18―17 京都市

▽決勝

大阪市 14―12 横浜市

（ハンドボールはことしから参加）

北信越は富山勢

▽第2回北信越選手権大会（7月21日、石川県小杉高）

▽男子一回戦＝福井代表は不参加

新潟教員（新潟）23―10 羽咋ク（石川）

氷見ク（富山）不戦勝 東日本日体OB（長野）

▽決勝

氷見ク 23（13―6 10―9）15 新潟教員ク

▽女子一回戦

上田城南高（長野）14―11 福井商（福井）

▽同二回戦

上田城南高 16―10 羽咋高OG（石川）

県富女OG（富山）13―3 新潟女子ク（新潟）

▽決勝

県富女OG 11（6―3 5―7）10 上田城南高

▽第18回国体東北予選（9月7、8日、仙台）

▽高校男子準々決勝

盛岡一（岩手）20（14―7 6―6）13 福島（福島）

仙台一（宮城）21（13―6 8―3）9 青森商（青森）

東根工（山形）17（11―7 6―9）16 青森（青森）

盛岡商（岩手）14（8―3 6―4）7 古川工（宮城）

▽同準決勝

盛岡一 19（8―8 11―4）12 仙台一

盛岡商 21（13―7 8―4）11 東根工

▽同決勝

盛岡一 12（9―4 3―4）8 盛岡商

▽高校女子準々決勝

涌谷（宮城）9（6―3 3―1）4 小高農工（福島）

秋田和洋（秋田）10（5―3 5―2）5 盛岡二（岩手）

郡山女（福島）4（2―0 2―1）1 宮城三女（宮城）

花巻南（岩手）6（2―1 4―2）3 六郷（秋田）

▽同準決勝

涌谷 7（7―2 0―3）5 秋田和洋

花巻南 5（3―2 2―2）4 郡山女

▽同決勝

涌谷 15（5―2 10―2）4 花巻南

▽一般男子準決勝

商友ク（岩手）24（11―7 13―5）12 湯沢ク（秋田）

TGク（宮城）22（9―7 13―3）10 安積ク（福島）

▽同敗者復活

安積ク 14（6―6 8―6）12 湯沢ク

湯沢ク 16（7―6 9―4）10 青森ク

安積ク 25（14―8 11―7）15 青森ク

▽同決勝

TGク 16（11―6 5―2）8 商友ク

▽一般女子決勝

涌谷OG 9（4―3 5―1）4 花巻ク

▽教員男子準決勝

大曲教員（秋田）15（9―6 6―2）8 岩手教員（岩手）

福島教員（福島）29（15―6 14―4）10 宮城教員（宮城）

▽同決勝

福島教員 24（14―7 10―4）11 大曲教員

▽第2回東京都中学体育大会ハンドボール競技（9月7―8日、新宿戸塚一中）

「男子」

▽準決勝

府中四中 20―11 立川二中

荏原一中 16―7 駒沢中

▽決勝

荏原一中 15―9 府中四中

「女子」

▽準決勝

戸塚一中 6―1 雪ヶ谷中

学大付中 10―1 中野三中

▽決勝

戸塚一中 8―5 学大付中

▽第一回東京都選手権大会（11月28日―30日、東京体育館）

▽男子準決勝

芝浦工大 33（18―6 15―4）10 立大B

大崎電気本社 25（9―7 16―4）11 立大A

▽同三位決定

立大A 24（11―8 13―6）14 立大B

▽同決勝

芝浦工大 16（10―9 6―5）14 大崎電気本社

▽女子三位決定

日体大 12（7―3 5―4）7 レナウン工業

▽同決勝

大崎電気B 12（5―3 7―5）7 大崎電気A

（くわしい記録は次号に掲載します）

▽第11回早大対慶大定期戦（6月8日、早大記念会堂）

早大 15（5―4 10―8）12 慶大

早大の6勝5敗

▽高校

早高学院 14―12 慶応

投書欄

地区大会のオープン化

本誌14号で知ったことだが、3月久留米で開かれた九州近県選手権大会に、大阪の桃山大や東京の大崎電気が参加しているのは興味深かった。地区大会というとその地域だけのチームが集まって、ともすれば同一チームの常勝が続きおもしろみに欠ける。もし地区大会参加の資格を他地区のチームに限ってオープン化すれば、大会そのものが充実し、当該地区の水準向上にも役立つのではないかと思う。またローカル・タイトルが意外に軽視されがちなことも、これによって改められればこの上ないと思う。たとえば東海地区のあるチームが「東京選手権」を奪い取りに行くというのではなく、東京地区の強チームに〃試合を求めて〃行くという形。こうなれば球界にとって好ましい傾向といえる。関係者の一考を求めたいと思う（愛知・桐生重孝・会社員）

11人制の特別大会を

4月から7人制になったが、国内的にも国際的にも〃11人制で育ったプレーヤー〃の数は圧倒的に多い。

11人制になじんだ小生としては、屋外での味を忘れることができない。11人制が全く姿を消すことに寂しさを感じる。そこで提案。年一度、11人制の特別大会を開いてもらうことはできないだろうか。国際的に11人制が全く消滅してしまったわけではない。もちろん「11人制選手権」といった大げさな形式のものではなく、懇親試合の形式でも、親善対抗戦でもよいと思う。時代に逆行するオールドプレーヤーのたわごとに聞えるかもしれないが、案外こんな気持ちを持っている者も多いのである。……（東京・戸田文吉）

専用グラウンドを設けよ

ハンドボールという競技は相変わらず人に知られたスポーツではないようです。中・高校生や学生の間には普及していますが、おとなの人にはあまり知られていません。その原因は東京とか大阪に専用グラウンドを持っていないことです。

一日も早く専用グラウンドを造るよう、協会関係者の努力を期待したいと思います。

また、そのような計画の有無を、貴誌で特集していただけたらと思います（東京・白木百合子・高校生）

質問欄

問 全日本選手権で初優勝した立大の最近年間の全日本での成績をお知らせください（兵庫・村上利男）

答 昭和34年以後の5年間をお答えします。昭和34年は不参加。35年は全立大として出場、2回戦で芝浦工大に24—7で、36年は3回戦で全日体大に21—14で、昨年は2回戦で芝浦工大に22—13で敗れています。

問 第1回国民体育大会（昭21）のとき、学生東西対抗として行なわれた大阪歯専対早大は、学生王座がかけられていましたか（東京・木村　英）

答 別にそのような申し合わせはなかったようです。関東側の代表となった早大は、リーグ戦とは別に予選を行なって勝ったものです。

問 昭和31年来日した西独チームと対戦した日本チームのシュート数、反則数などはわかりますか。（熊本・大谷軍治）

答 各試合のシュート(S)と反則数(F)をお答えします。

▽全日本学生 S29 F11　▽全東海 S34 F17　▽富山ク S24 F14　▽全日本（大阪） S34 F10　▽全九州 S36 F12　▽全山口 S23 F9　▽関東学生 S40 F18　▽全日本（東京） S32 F11

問 関東学連の二部校が、一部にあった最後のシーズンをお知らせください（東京・吉田兼一）

答 ▽慶大（38年春）▽防衛大（35年春）▽東大（33年秋）▽茨城大（32年春）▽順天堂大（33年春）▽東京学芸大（一部在籍なし）

問 全国高校選手権男子決勝で中京商と桜台が対戦したことは今夏を含めて何回ありますか。各スコアもお知らせ下さい（愛知・殿木生）

答 今夏を含めて四回です。昭和35年、36年は二年連続して両者の対決でした。

▽昭32　桜　台　18—10　中京商
▽昭35　中京商　12—11　桜　台
▽昭36　中京商　13—12　桜　台
▽昭38　桜　台　14—13　中京商

編集後記

▽…国際審判講習会（パリ）に若崎、藤本両氏が出席したので、本号はこの両氏の報告を兼ねて会議の内容、西ドイツのハンドボールについて執筆してもらった。またユニバシアードに参加した勝氏にも執筆を依頼しました。西ドイツのハンドボールが手にとるようにわかるほどくわしく書いていただいた。次号(16号)にも若崎、藤本両氏になにか書いてもらう予定です。

▽…立大が全日本学生、全日本総合選手権に優勝した。これは1963年のビッグニュースのトップを行くもの（？）と思う。立大の努力には敬意を表したい。本誌が出るころは秋のリーグ戦、国体、学生王座決定戦が終了しているころです。日体大、芝浦工大の追い込みが見ものというところ。

▽…日韓学生親善試合の記録は馬場副会長、杉山NHK記者のご協力でまとまりました。また杉山記者は戦前の関東学生リーグの記録を収集、本号から掲載しました。

▽…世界7人制選手権の組み合わせが決まり、協会はその準備に追われている。ベストメンバーで善戦されんことを祈るのみ。

▽…全日本総合、国体で愛知紡がレナウン東京に敗れて大番狂わせ。女子のレベルが上がったことを証明した。全日本室内で愛知紡のまき返しが見ものです。国体に大崎電気が埼玉県から出場したが、地方のレベルを引き上げる意味で大きなプラス。埼玉工場にアンツーカーのコート二面を持っているのはさすが。

▽…巻頭言にたいする注文があれば本誌編集部まで。（ふぐ）

日本ハンドボール協会編
ハンドボール　第十五号
昭和三十八年十二月二十日印刷
昭和三十八年十二月二十五日発行
発行所　日本ハンドボール協会
東京都千代田区神田駿河台一ノ六
電話（261）九五一一〜五　振替東京五八三四八番
編集兼発行人　高嶋冽
定価八十円　（〒）二十円